

浅川実験林のキノコ

Rokuya IMAZeki and Seiichi TOKI: Higher Fungi of Asakawa Experiment Forest.

今 関 六 也*
土 岐 晴 一**

目 次

I まえがき	19
II 菌類目録	21
III 浅川実験林を Type locality とするもの 5 種	60
IV 本報告によつてはじめて日本に記録されるものおよび新種	61
V Aphyllophorales の分類と科の検索	61
VI Agaricales の分類	63
VII 浅川実験林の食菌と毒茸	67
a) たべられるキノコ	67
b) 主な食用キノコ	68
c) 毒キノコ	68
d) 重要な毒茸をふくむ属について	69
Amanita テングタケ属	69
Entoloma イツボンシメジ属	69
Hypholoma イタチタケ属	69
Inocybe アセタケ属	70
Stropharia モエギタケ属	70

I. まえがき (Forewords)

中央線の浅川駅にほど近い林業試験場浅川分室には約 50 町歩の実験林が附属している。モミ、アカマツなどを主とする天然生林は長い間、皇室の御料地時代から試験林としてよく保存されている。また種々な樹種を異にする針・広葉の造林地もあり、地形の複雑さと相まつて、小面積ながらも附近の名勝高尾山とともに、大都会に近いところとしては稀にみる自然美の豊かな森林であり、また生物研究のためにも貴重な場所である。

著者のうち今関は十数年前から、しばしばこの地を訪ねて高等菌の採集を行い、かつて“浅川御料地産菌類採集目録¹⁾”と題する簡単な報告を書いたことがある。その後しばらく採集を中止していたが、昭和 22 年以来、共著者土岐とともに再び同地へたびたび採集する機会をえ

* 保護部長 ** 保護部菌類研究室

¹⁾ 自然科学と博物館, Vol. 9, No. 108: 8~14 (1938)

ることになり、前の目録に増補訂正を行うべき結果を得たので、稿を改めて報告する。なお同地は今井三子博士も数回採集され、いくつかの学界未知の種を報告¹⁾している。目録にはもちろんこれらを加えてある。

しかしながらわが国の菌類研究は、歴史的に見れば必ずしもその年月は短かくないが、質的には極めて未熟な状態にあつて、目につきやすい高等菌類でも、実在する種の過半数は研究されないで残されている。したがつて、わが国の茸を調査する場合には不明の種が多く、しかもこれらについて学名を決定し、正式に命名、登録する仕事は容易な業ではなく、多くの専門学者の長い努力を必要とする。このことは浅川の試験林のような小面積の菌類目録をとりまとめるときにも、大きな悩みとなるものである。それ故、この目録も採集した茸のすべてを調べあげたものではなく、実は半ばをあげたにすぎないことを了解していただきたい。

次にこの種の目録をまとめるにあつて、種 (species) をどんな順序にならべるかが第 2 の厄介な問題である。単に機械的に A, B, C 順にならべるとか、従来ひろく行われている ENGLER 式などにしたがうならばたやすいが、菌類分類学は近年著しく革新的になつており、これまでの人為分類からぬけて、系統的な自然分類体系をたてようとする努力が、世界の菌学界を風靡している。この努力は菌類の各部門で、それぞれの専門家によつて行われているが、しかしその成果は部分的であり、断片的でもある。したがつて、いま直ちに全面的に新しい立場にたつたシステムを求めることは容易でないし、またこのたびの報告の目的とはかけ離れた問題でもある。しかし、菌類分類学界の趨勢がかくある以上、その考え方を無視するわけにはいかない。きわめて中途はんばなものであるが、一つの過渡期の姿として本報告の配列について批判をいただきたい。

この目録はこのように未熟なものである。さらに森林、樹木の栄養、或いは病害、腐朽などに密接な関係がある菌類を研究するにあつて、その生態的な観察調査にも充分眼がむけられなければならない。その点については今後の調査によつて補つていきたい。

ただ茸類は食用の対象になり、茸の食毒性ということは、林業家にも一般の人にも関心がもたれることである。いささか学・俗混淆の不調和があるが、解説めいた付記を後につけくわえた。

この調査研究を行うにあつて、皇室林野局時代からひきつづき御協力をいただいた前林業試験場長谷川孝三博士をはじめ、浅川分室の草下、野原、小山、陳野枝官などの諸氏、さらに検読、作図その他について御協力をいただいた藤島、中川、郷原技官などの各位にたいして、深謝の意を表するものである。

1) IMAI-S.: *Studia Agaricacearum Japonicarum I—III*, in Bot. Mag. Tokyo, 55: 392~9, 444~51 et 514~20 (1941)

凡 例

(1) 和名の後に付記した () 内の略字は次の意味をあらわす。

T は地上に生える L は樹木に生える N は針葉樹 B は広葉樹

したがって N—L は針葉樹の木の上に生える, N—T は針葉樹林内の地上にはえるなど。

(2) 資料は林業試験場標本には (F 222) のごとく標本番号がつけてある。その他は国立科学博物館 (略号 N. S. M.), 北海道大学農学部 (Herb. Hokk. Univ. と略記) に保存されているものによつた。

II. 菌類目録 (List of fungi)

ASCOMYCETES 子囊菌類

Paxina hispida (SCHAEFF.) SEEVER *Peziza macropus* PERS., KAWAMURA, Kinrui

Dusetu. (チャワソタケ科)

和名¹⁾: ナガエノチャワソタケ (T)⁴⁾ 分布²⁾: 欧, 北米, 亞: 日 (本州)

資料³⁾: X—19, 1952, leg. IMAZEKI

Peziza vesiculosa FR. (同上)

和名: オオチャワソタケ (食, T) 分布: 欧, 北米, 濠, 亞: 日 (本州)

資料: X—19, 1952, leg. IMAZEKI

Plectania coccinea (SCOP.) FUEK. (同上)

和名: ベニチャワソタケ (B—L) 分布: 熱帯系汎分布

資料: X—19, 1952, leg. IMAZEKI

Wynnea gigantea BERK. et CURT.

和名: ミミズサタケ (T) 分布: メキシコ, 亞: 日 (本州)

資料: leg. IMAZEKI (N. S. M.)

BASIDIOMYCETES 担子菌類

HETEROBASIDIAE

Auricularia Auricula-Judae (BULL.) SCHROET. (キクラゲ科)

和名: キクラゲ (食, B—L) 分布: 汎分布種, 特に温帯以北に多い。

資料: X—19, 1952, leg. IMAZEKI

A. polytricha (MONT.) SACC. (同上)

和名: アラゲキクラゲ (食, B—L) 分布: 汎分布種, 特に熱帯から温帯に多い。

1) Japanese name (和名) 2) Distribution (分布) 3) Materials (資料)

4) Abbreviations in the parentheses following to the Japanese name mean the habitat.

T (growing on ground), L (growing on wood), N (conifer), and B (broad leaved tree).

資料：Ⅶ—28, 1950, leg. TOKI (F. 2058)

記事：キクラゲ、アラゲキクラゲはともに食用になるが、食品としては前者の方が遙かに価値が高い。分布はともに広いが、キクラゲはむしろ北方系であり、アラゲキクラゲは南方系である。したがって、本州では山地にキクラゲが多く、平地または西南地方にはアラゲの方が多い。

Tremella iduensis KOBAYASI (シロキクラゲ科)

和名：キイロニカワタケ (B—L) 分布：日本特産 (本)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. IMAZEKI

T. foliacea PERS. ex FR. (同上)

和名：ハナビラニカワタケ (食, B—L) 分布：欧, 北・南米, 濠, 亞：(支), 日 (本州) 資料：Ⅹ—19, 1952, leg. IMAZEKI

HOMOBASIDIAE—APHYLLOPHORALES

Corticaceae ウロコタケ科

Corticium laeve (PERS.) QUÉL.

和名：エビコウヤクタケ (B—L) 分布：欧, 北米, 亞：(樺), 日 (本州)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

Corticium evolvens FR.

和名：シロコウヤクタケ (B—L) 分布：欧, 北米, 亞：日 (本州)

資料：Ⅺ—15, 1949, leg. IMAZEKI (F. 1844)

Stereum gausapatum FR. *Stereum spadiceum* FR.

和名：チウロコタケ (B—L) 分布：欧, 北米, 濠, 亞：(支), 日 (本一九)

資料：Ⅺ—21, 1950, leg. TOKI (F. 2614)

S. hirsutum WILLD. ex FR.

和名：キウロコタケ (B—L) 分布：全世界 資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

S. vibrans BERK.

和名：サビウロコタケ (B—L) 分布：北米, 亞：(支), 日 (本一九)

資料：Ⅺ—15, 1950, leg. AOSHIMA (F. 2491)

Clavariaceae ホウキタケ科

Clavaria apiculata FR.

和名：チャホウキタケモドキ (食, N—L) 分布：欧, 北米, 亞：日 (北一本)

資料：Ⅳ—23, 1948, leg. TOKI (F. 548)

C. botrytis FR.

和名：ホウキタケ (食, B—T) 分布：欧, 北米, 亞：(支), 日 (北一本)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

C. inaequalis FR.

和名：キソウメンタケ (食, T) 分布：欧, 北米, 亞：日 (北一本)

資料：Ⅸ—19, 1950, leg. IMAZEKI et TOKI (F. 2257)

C. vermicularis FR.

和名：シロソウメンタケ (食, T) 分布：欧, 北米, 亞：日 (北一本)

資料：Ⅸ—13, 1949, leg. TOKI

Cantharellaceae アンズタケ科

Cantharellus cibarius FR.

和名：アンズダケ (食, N—T) 分布：欧, 北米, 濠, 亞：(支), 日 (北一本)

資料：Ⅸ—13, 1949, leg. TOKI (F. 1362)

C. floccosus SCHW.

和名：ウスタケ (食, T) 分布：欧, 北米, 亞：日 (北一本)

資料：Ⅸ—17 (1947), leg. TOKI (F. 535)

C. minor PK.

和名：ヒメアンズタケ (食, T) 分布：北米, 亞：日 (北一本)

資料：Ⅸ—13, 1949, leg. TOKI (F. 1363)

Craterellus cornucopioides L. ex FR.

和名：クロウスタケ (食, T) 分布：汎分布種

資料：Ⅸ—4, 1951, leg. TOKI (F. 2900)

Phylacteriaceae イボタケ科

Hydnellum zonatum (FR.) KARST.

和名：チャハリタケ (T) 分布：欧, 北米, 濠, 亞：日 (本—九州)

資料：Ⅸ—13, 1949, leg. TOKI (F. 1344)

Polyozellus multiplex (UNDERW.) MURR. *Cantharellus multiplex* UNDERW.

和名：カラストケ (食, T) 分布：北米, 亞：(朝鮮), 日 (本—九)

資料：Ⅸ—26, 1949, leg. TOKI (F. 1583)

記事：カラストケは珍しい茸である。1998 年に、北米の UNDERWOOD がはじめて発見してから、1937 年にカナダの MOUNCE 女史が 2 度目の報告をするまで、誰もこの茸について原産地の原標本以外のものを知らなかつた。その後、北米大陸では SHOPE が 1938 年に Colorado 州で、また SMITH および MORSE などによつて 1947 年に北部の 2, 3 の州での採集品を報

告しただけである。ところが筆者のうち今関はこれを 1936 年に浅川の実験林で採集, 1938 年に自然科学と博物館誌上に珍菌カラストケと題する小文をのせた。現在まで筆者が知り得た東亞での産地は九州霧島山(これは田代善太郎氏による古い採集品であるが, LLOYD はこれの子囊菌と誤まり *Phyllocarbon Yasudai* LLOYD なる新属新名を与えた), および浅川の山とであるが, 岩出亥之助氏によると朝鮮にも産するとのことである。このように本種の分布は案外広いが, ともかく採集記録が少ない珍菌である。しかし, 浅川の実験林には毎秋必らず発生する。

この菌についてはいろいろと重要な研究課題があるが, そのことは別に詳しく論ずる。ただ本文で学名に *Polyozellus multiplex* の組合わせを用いたことは, アメリカの菌学者が *Cantharellus* に所属させる説に対して, われわれは別の意見を持つているからであり, またその分類学的位置をイボタケ科 *Phylacteriaceae* (イボタケ属 *Thelephora*, コウタケ属 *Sarcodon*, チャハリタケ属 *Hydnellum*, クロカワ属 *Boletopsis* などを含む) においたことは, 筆者今関の新説であり, このことについては目下他の専門誌 (Mycologia) 上に投稿中であることを付記するにとどめる。

本菌は岩出氏によると食用に供されるところであるが, 一種の強いヒジキのような臭気と黒い色素を多量に含むことで, われわれの食慾をそそるものではない。

***Thelephora anthocephala* (Fr.) Pat.**

和名: トサカイボタケ (T) 分布: 欧, 米, 亞: 日 (本)

資料: leg. IMAZEKI (N. S. M.)

***T. japonica* YASUDA**

和名: イボタケ (T) 分布: 日本特産 資料: X—4, 1951, leg. TOKI (F. 2944)

***Sarcodon scabrosus* (Fr.) QuéL.**

和名: ケロウジ (T) 分布: 欧, 米, 亞: 日 (本)

資料: X—4, 1951, leg. TOKI (F. 2905)

Hymenochaetaceae タバコウロコタケ科

Fructificatio resupinatus vel effuso-resupinatus, raro stipitatus, annuus vel perennis; contextus brunneus; hymenophorus aequabilis; hymenium generatim setigerum.

Type: *Hymenochaete* Lév.

***Hymenochaete arida* (Karst.) Sacc.**

和名: シブウロコタケ (N—L) 分布: 欧, 米, 亞: (千島), 日 (本—本)

資料: leg. IMAZEKI (N. S. M.)

***H. Sallei* Berk. et Curt.**

和名: コガネウロコタケ (B—L) 分布: 全米, 亞: (西印, 台), 日 (本—九)

資料: leg. IMAZEKI (N. S. M.)

H. Yasudai IMAZEKI

和名: マツノタバコウロコタケ (N—L) 分布: 亜: (朝鮮), 日 (本—九)

資料: leg. IMAZEKI (N. S. M.)

Veluticeps medica (CURR.) CKE.

和名: クスリウロコタケ (N—L) 分布: 亜: (印), 日 (本—四)

資料: leg. IMAZEKI (N. S. M.)

Mucronoporaceae キコブタケ科

Fructificatio annuus vel perennis, resupinatus, effuso-reflexus, sessilis vel stipitatus, lignicolus vel raro terrestris; contextus ex hyphis brunneis constructi, saepe hyphae setigerae presentia; hymenophorus inaequalis, spinulosus, denticulatus, porosus; hymenium generatim setulosum.

Type: *Phellinus* QUÉL.

Coltricia cinnamomea (PERS. ex FR.) MURR.

和名: ニツケイタケ (T) 分布: 欧, 北米, 亜: (支), 日 (北—九)

資料: X—17, 1947, leg. IMAZEKI (F. 96); VII—4, 1950, leg. IMAZEKI et Toki (F. 2014)

C. greenii (BERK.) IMAZ. Bull. Tokyo Sci. Mus., 6: 109 (1943)

Cyclomyces Greenii BERK., *Polyporus Greenii* YASUDA

和名: ウズタケ (T) 分布: 北米, 亜: (支), 日 (本州)

資料: leg. IMAZEKI (N.S.M.)

Notes: The writers suppose that one may feel strange enough the present species having been transferred to the genus *Coltricia* from *Cyclomyces* by the senior writer in his previous paper, "The genera of Polyporaceae of Nippon, 1943." The genus *Cyclomyces* FRIES is based on the concentric disposition of the pores. However, except the concentric arrangement of lamellae, many species of the genus differ each other in various characteristics. It is to say that the genus is an artificial and conventional one, based on a single, superficial resemblance.

Cyclomyces Greenii is very nearly related to *Polystictus perennis* and *P. cinnamomeus*, though they are different in the configuration of hymenophore. The hymenophore of *C. Greenii* is fairly changable from lamellate to porose. In Japan, there had been found the porose form of *C. Greenii*, to which the late Prof. YASUDA gave a name *Polyporus Greenii*. This is merely a form of *Cyclomyces Greenii*, though it was inevitable that these two forms of the same species were placed in different genera by the preservative mycologists. The senior writer restricted the genus *Cyclomyces* to *C. fuscus* and its allied brown

polypores.

Cryptoderma citrinum IMAZ., Bull. Tokyo Sci. Mus., 6: 107 (1943) *Polyporus illicicola* YASUDA, Bot. Mag. Tokyo, 27: 339 (1913) [non P. HENNINGS] et al.

和名：ダイダイタケ (B—L) 分布：亜：(台湾), 日本 (北—九)

資料：Ⅺ—21, 1950, leg. TOKI (F. 2613)

Notes: This is the plant which had been called as *Polyporus illicicola* P. HENN. in Japan. The type specimen of *P. illicicola* P. HENN. (a part of the type collection is preserved in Tokyo University) is, nothing but *Polyporus gilvus*. The plant customarily called *P. illicicola* by YASUDA and others in Japan is not *P. gilvus*. It is a unique species which has a much differentiated context interposed between the subcrust (the upper bordering layer of Burt) and the lower bordering layer like sandwiches. The context is about 300 μ thick and very brilliantly lemon yellow, while the upper and lower bordering layers are dark brown. *Cryptoderma substygium* is an another species which has a sandwiched context, but the color of it is almost same to the other parts of the fruitbody.

本種は従来 *Polyporus illicicola* P. HENN. と呼びならわされてきた茸である。シイタケ槽木の害菌であり、またナラ、クスギなどの切株にはえる。

C. Ribis (SCHUM. ex FR.) IMAZ.

和名：スグリタケ (B—L) 分布：欧, 北米, 亜：(シベリア), 日 (本)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.) ミツバウツギ生木上

Notes: This grows gregariously on the living stem of *Staphylea Bumalda*, causing a white heart rot. The kind of the host tree seems to be restricted to this species in the vicinity of Tokyo at least.

Inonotus cuticularis (FR.) KARST.—*Polyporus mikadoi* LLOYD

和名：カワウソタケ (B—L) 分布：欧, 北米, 亜：(支), 日本 (北—九)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

Phellinus Hartigii (ALLESCH.) IMAZ.

和名：モミサルノコシカケ (N—L) 分布：欧, 亜：日 (北—九)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

記事：本種はモミ属、アスナロなどの溝腐病をおこす立木腐朽菌であるが、この実験林では稀である。

Hydnaceae ハリタケ科

Hydnum repandum L. ex FR. var. **albidum** FR.

和名：シロカノシタ (食, T) 分布：欧, 北米, 濠, 亜：(支), 日 (全国)

資料：Ⅹ—6, 1950, leg. TOKI (F. 2285)

Odontia bicolor (Fr.) Bres.

和名：ハリタケモドキ (新) (B—L) 分布：欧，米，亞：日 (本)

資料：Ⅵ—15, 1950, leg. AOESHIMA (F. 2489)

Steccherinum ochraceum (Fr.) S. F. Gray

和名：ニクハリタケ (B—L) 分布：欧，北米，亞：(支)，日 (全)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

S. pulcherrinum (B. et C.) Banker

和名：アセハリタケ (N—L) 分布：欧，北米，濠，亞：日 (本—九)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

Meruliaceae シワタケ科

Merulius tremellosus Schrad. ex Fr.

和名：シワタケ (B—L) 分布：欧，北米，亞：(シベリア，支)，日 (全)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

Polyporaceae サルノコシカケ科

Coriolus hirsutus (Fr.) Quél.—*Polystictus hirsutus* Fr.

和名：アラゲカワラタケ (B—L) 分布：汎世界的

資料：Ⅵ—23, 1946, leg. TOKI

C. versicolor (Fr.) Quél.—*Polystictus versicolor* Fr.

和名：カワラタケ (B—L) 分布：汎世界的

資料：leg. Imazeki (N. S. M.)

Cryptoporus volvatus (Pk.) Hubb.

和名：ヒトクチタケ (N—L) 分布：北米，亞：(支，朝)，日 (本—九)

資料：Ⅴ—22, 1946, leg. TOKI

Daedalea biennis Bull. ex Fr.

和名：ニクウチワタケ (B—L) 分布：欧，米，亞：(支)，日 (北—本)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

Daedaleopsis conchiformis IMAZ.—*Trametes tricolor* Lloyd

和名：シジミアミタケ (B—L) 分布：亞：日本 (本—九)，朝鮮，南洋群島，ニューギニア 資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

D. tricolor (Bull. ex Fr.) Bond. et Sing.—*Lenzites tricolor* Bull. ex Fr.

和名：チャカイガラタケ (B—L) 分布：欧，北米，亞：(支)，日 (北—九)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

Elfvigia applanata PERS. ex KARST.—*Fomes applanatus* PERS. ex GILL.

和名：コフキタケ，コフキササルノコシカケ (B—L) 分布：汎分布種

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

Favolus arcularius (FR.) AMES

和名：アミスギタケ (B—L) 分布：汎分布種

資料：V—19, 1948, leg. TOKI (F. 534)

Fomitopsis insularis (MURR.) IMAZ.—*Polystictus persoonii* YASUDA [non FR.]

和名：レンガタケ (N—L) 分布：亞：(比)，日 (北—九)

資料：X—17, 1947, leg. IMAZEKI (F. 104)

F. pinicola (SCHW. ex FR.) KARST.—*Fomes pinicola* SCHW. ex FR.

和名：ツガサルノコシカケ (N—L) 分布：欧，米，亞：(支，西)，日 (全)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

F. vinosa (BERK.) IMAZ.—*Polystictus vinosus* BERK.

和名：ブドウタケ (N—L) 分布：米，亞：(滿，支，印)，日 (全)

資料：W—6, 1949, leg. IMAZEKI (F. 1840)

Ganoderma neo-japonicum IMAZ.—*Polyporus japonicus* FR.

和名：マゴジヤクシ (N—L) 分布：日本特産 (本—九)

資料：X—17, 1947, leg. IMAZEKI (F. 557)

Gloeophyllum abietinum (BULL. ex FR.) IMAZ.—*Lenzites abietina* BULL. ex FR.

和名：コゲイロカイガラタケ (N—L) 分布：欧，米，亞：(支)，日 (全)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

G. subferrugineum (BERK.) BOND. et SING.—*Lenzites subferruginea* BERK.

和名：ヒロハノキカイガラタケ (N—L) 分布：亞：(比，印)，日 (本—九)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

G. trabeum (PERS. ex FR.) MURR.—*Lenzites trabea* PERS. ex FR.

和名：キチリメンタケ (N—L) 分布：欧，米，亞：(支)，日 (北—九)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

Hapalopilus cuneatus (MURR.) IMAZ.—*Polystictus cuneatus* MURR.

和名：ヒメシロカイメンタケ (N—L) 分布：北米，亞：日 (北—九)

資料：X—17, 1947, leg. TOKI (F. 107)

H. fibrillosus (KARST.) BOND. et SING.—*Polyporus fibrillosus* KARST.

和名：カボチャタケ (N—L) 分布：欧，米，亞：(樺)，日 (北—四国)

資料: leg. IMAZEKI (N. S. M.)

H. gypseus (YASUDA) IMAZ.—*Polystictus gypseus* YASUDA

和名: シツクイタケ (N—L) 分布: 日本特産 (本州)

資料: leg. IMAZEKI (N. S. M.)

Hirschioporus abietinus (FR.) DONK—*Polystictus abietinus* FR.

和名: シハイタケ (N—L) 分布: 北半球汎分布種

資料: leg. IMAZEKI (N. S. M.)

H. fusco-violaceus (EHR. ex FR.) DONK—*Irpex fusco-violaceus* EHR. ex FR.

和名: ウスバシハイタケ (N—L) 分布: 欧, 米, 亞: (支, 満, 西), 日 (全)

資料: leg. IMAZEKI (N. S. M.)

Notes: *H. abietinus* and *H. fusco-violaceus* differ morphologically as well as ecologically each other. In general, the former grows on *Picea* and *Pinus*, while the latter grows on *Abies*.

シハイタケとウスバシハイタケとはよく似ているが前者はマツ, エゾマツなどに, 後者はモミ, ドドマツなどに多い。前者の下面には浅いが, 明らかに孔があり, 後者は薄菌状をなす。

Irpex lacteus FR.

和名: ウスバタケ (B—L) 分布: 欧, 米, 亞: (支, 西), 日 (全)

資料: leg. IMAZEKI (N. S. M.)

I. parvulus YASUDA

和名: コゴメウスバタケ (B—L) 分布: 日本特産 (本)

資料: II—15, 1950, leg. AOSHIMA (F. 2355)

Lenzites betulina L. ex FR.

和名: カイガラタケ (B—L) 分布: 全世界; 全日本

資料: leg. IMAZEKI

Polyporellus varius (PERS. ex FR.) PILAT—*Polyporus varius* PERS. ex FR.

和名: アシグロタケ (B—L) 分布: 欧, 米, 亞: 日 (全)

資料: X—4, 1951, leg. TOKI (F. 2903)

Polyporus cristatus PERS. ex FR.

和名: ザボンタケ (食, T) 分布: 欧, 米, 亞: 日 (本)

資料: leg. IMAZEKI (N. S. M.)

P. dispansus LLOYD *Polyporus illudens* OVERH., Mycologia, 33: 95, f. 6 (1941) Syn. nov.

和名: コウモリタケ (T) 分布: 米, 亞: 日 (本)

資料: X—17, 1947, leg. IMAZEKI (F. 95)

Notes: The writers think that *Polyporus illudens* OVERHOLTS seems to be same with this Japanese *Polyporus dispansus*. The description given by OVERHOLTS was written from old dried herbarium specimen which was collected by A. S. RHOADS at Boville, Idaho, on Sept. 26, 1920. As to the color, he described as "color of fresh plant unknown, every where brick-red on drying or at least in the herbarium." This is nothing but the characteristic of the aged herbarium specimens of *Polyporus dispansus*. The fresh plant has sulphur yellow colored pilei, and white context and hymenium, as was noticed by the senior writer already (Jour. Jap. Bot., 9: 556, 1933). *Polyporus illudens* seems to be very rare in United States, but it is necessary to know the fresh condition. In Japan, *P. dispansus* is rather common and occurs in pine or fir woods.

P. dispansus seems to be eatable by its fleshy texture, but the senior writer was astonished at its very acrid taste when he tested by cooking.

コウモリタケは肉質で食べられそうであるが、今関は一度これを試食し、辛味が強いのに驚いた。本種は従来日本特産とされていたが、1941年に米国の OVERHOLTS が発表した *Polyporus illudens* OVERH. は同種と考えられる。

***Polyporus ovinus* SCHAEFF. ex FR.**

和名：ニンギョウタケモドキ（食，T） 分布：欧，米，亞：日（本）

資料：X—26, 1949, leg. TOKI (F. 1584)

***Trametes albida* (FR.) BOURD. et GALZ.**

和名：ヒメシロアミタケ（N，B—L） 分布：北半球汎分布

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

***T. Dickinsii* BERK.**

和名：ホウロクタケ（B—L） 分布：亞：（支，滿，印），日（全）

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

Notes: *Trametes Dickinsii* is near akin to *Daedalea quercina* which is not found in Japan (*D. quercina* of KAWAMURA is nothing but *Trametes Kusanoana* (IMAZ.) IMAZ. and *D. quernina* of HIROE is a daedaloid form of *Trametes Dickinsii*. *T. Dickinsii* has round pores but often takes an daedaloid form. The pores, however, are much narrower and the lamellae are far thinner than those of *D. quercina*. Otherwise the plant is similar to *D. quercina* in every essential characteristic.

***T. cinnabarina* JACQ. ex FR.**

和名：シユタケ（B—L） 分布：北半球温帯以北；日（北—九）

資料：VII—4, 1950, leg. IMAZEKI (F. 2016)

***T. sanguinea* (L. ex FR.) IMAZ.—*Polystictus sanguineus* L. ex FR.**

和名：ヒイロタケ（B—L） 分布：汎世界的（温—熱帯）；日（全）

資料: X—21, 1950, leg. TOKI (F. 2616)

T. sensitiva YASUDA

和名: アカゾメアミタケ (L) 分布: 日本特産 (本)

資料: X—17, 1947, leg. IMAZEKI (F. 105)

Tyromyces borealis (FR.) IMAZ.—*Polyporus borealis* FR.

和名: エゾタケ 分布: 欧, 米, 亞: 日 (北一本)

資料: X—19, 1952, leg. IMAZEKI et AOSHIMA

Notes: This is a northern species and, in Japan, it has been recorded only from Hokkaido hithertow. The writers collected only a single fruitbody at this locality last autumn, and it is the first record of this species from Honsyu.

本種は北方系の菌で針葉樹の立木心材腐朽菌であり, 従来は北海道でだけ知られていたが, 昨秋浅川で発見した。本州でははじめての記録である。

T. caesius (SCHRAD. ex FR.) MURR.—*Polyporus caesius* SCHRAD. ex FR.

和名: アオゾメタケ (N—L) 分布: 欧, 北米, 亞: 日 (全)

資料: X—17, 1947, leg. IMAZEKI (F. 103)

T. incarnatus IMAZEKI

Fr. sessili, annua, lignicola; pileo primo spathulato vel subflabelliformis, dein dimidiato, $9 \times 5 \times 1.3$ cm, plani-applanato, margine juniori saepe obtuso, maturo tenuis et subacuto, superficie incarnata (Grenadine, Rufous or Camelian Red of RIDGEWAY), sicco distincte pruinosa, leniter rugulosa et concentrice subsulcata, disperse (laxe) papillariter verrucosa, contextu ad 7 mm crasso, vivo molli-carnoso, succulenti, plus minusve fragili, sicco molli-suberoso, juniore incarnato, dein pallido-roseo (Salmon Color to Safran Pink of RIDGEWAY), leniter zonato, hyphis hyalinis, $5-6.5\mu$ crasso; hymenophoro tubuloso, unistratoso, ad 4 mm crasso, trama tenui, ex hyphis $3.7-5\mu$ crassis composita, subheterogenea, poris minutis, subcircularibus, 3—4 per mm, acie tenuis, acuta, incarnata; sporis hyalinis, ellipsoideis, $4-5 \times 2.5\mu$; cystidiis nullis.

Nom. Jap.: Akebono-osiroy-take, nov.

Materials: Asakawa, July 31, 1947, leg. IMAZEKI-R., on rotten wood of *Abies firma*; Mt. SATORI, MIYAZAKI pref., July 30, 1938, leg. IMAZEKI, on conifer; Suki-mura, Nisimorokata-gun, Miyazaki pref., Aug. 3, 1938, leg. IMAZEKI. (Typus).

傘は, はじめやや笠形または扇形, 後に半円形になる。 $9 \times 5 \times 1.3$ cm; 全体美しい淡いバラ色～サンゴ色で, 肉質柔軟なキノコである; 管孔は長さ 4 mm ぐらい。孔は微細; 胞子は $4-5 \times 2.5\mu$, 楕円形である。今関はかつて宮崎県下で採集し, 上記の名を用意したが今回はじめてこれを発表する。浅川は第2の産地である。

T. squalens (KARST.) IMAZ.—*Trametes squalens* KARST.—*Polyporus squalens*

(KARST.) SACC.

和名：マツノオオウズラタケ (N—L) 分布：欧，米，亞：(樺)，日 (北一本)

資料：Ⅷ—2, 1951, leg. TOKI (F. 2842), on *Pinus densiflora*.

HOMOBASIDIAE—AGARICALES

Boletaceae イグチ科

Boletus erythropus Fr.

和名：オオウラベニイロガワリ 分布：欧，北米，亞：日 (本) 資料：leg. IMAZEKI

Boletellus floriformis IMAZ., Nagaoa, 2:42 (1952)

和名：キクバナイグチ 分布：日本特産 (東京) 資料：Asakawa Ⅸ—13, 1949,
leg. TOKI (F. 1337) ——“Typus”; 目黒自然園内，Ⅷ，1950, leg. NAMEKAWA

記事：ボンボンダリアの花を思わせる派手な傘，オニイグチに似て傘の下面をおおうベール，ラグビーボールに似た大形の紡錘形の孢子，しかもその表面には縦に並ぶ畝形の隆起模様など著しい特色をもつキノコである。

本種は北米の *Boletellus Ananas* に似るが，傘・茎の色などで異なる。最近筆者今関によつて上記の名が与えられたが，原標本は浅川産のものであり，土岐の発見にかかわる。その後目黒の自然園内でも同園の滑川氏によつて採集された。

Leccinum chromapes (FROST) SINGER—*Boletus chromapes* FROST

和名：アケボノアワタケ (食，T) 分布：北米，亞：日 (本)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI (F. 3131)

Phylloporus rhodoxanthus (SCHW.) BRES.—*Clitocybe Palletieri* GILL.

和名：キヒダタケ (食，T) 分布：欧，北米，亞：日 (北一本)

資料：Ⅸ—13, 1949, leg. TOKI (F. 1352)

Suillus bovinus (L. ex FR.) KUNTZE—*Boletus bovinus* L. ex FR.

和名：アミタケ (食，N—T) 分布：北半球汎分布種；日 (全)

資料：Ⅶ—23, 1950, leg. IMAZEKI

S. luteus (L. ex FR.) S. F. GRAY.—*Boletus luteus* L. ex FR.

和名：ヌメリイグチ (食，N—T) 分布：欧，米，亞：(支)，日

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

S. piperatus (BULL. ex FR.) KUNTZE—*Boletus piperatus* BULL. ex FR.

和名：コシヨウイグチ (T) 分布：欧，北米，亞：日 (本)

資料：Ⅹ—26, 1949, leg. TOKI (F. 1555)

記事：浅川実験林は今までの記録では日本における唯一の産地である。味が辛いのがイグチ科では珍しい。

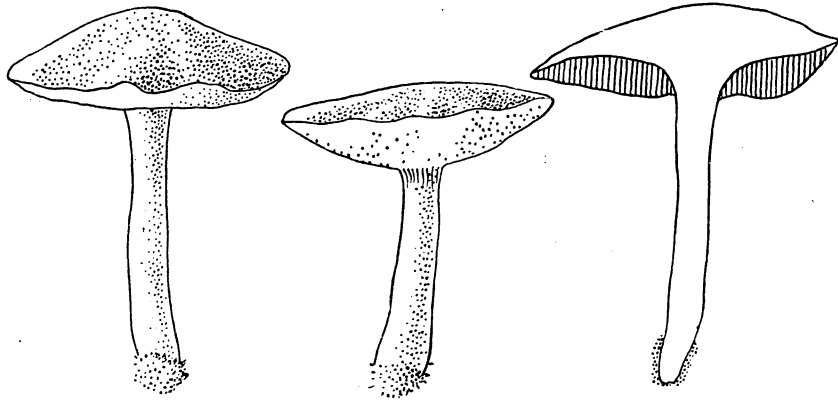


Fig. 1. *Suillus piperatus* (BULL. ex FR.) KUNTZE コシヨウイグチ

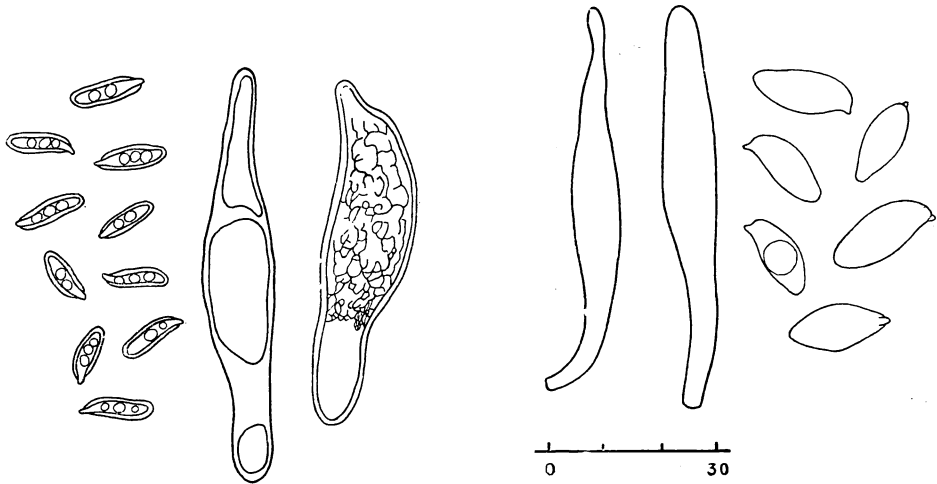


Fig. 2.
Spores and cystidia of *Suillus piperatus*.
コシヨウイグチの胞子と cystidia

Fig. 3. Spores and cystidia of *Xerocomus astreicola* IMAZ.
タマノリイグチの胞子と cystidia.

***Xerocomus astreicola* IMAZ., Nagaoa, 2 : 35 (1952)**

和名：タマノリイグチ (ツチグりに寄生) 分布：日本特産 (浅川)

資料：X—17, 1947, leg. IMAZ. (F. 99); VII—31, 1951, leg. IMAZ. (F. 3350 Typus)

記事：最近筆者今関によつて命名された。和名の“タマノリ”とはこのイグチが地下にある，まだ若い球形のツチグりに寄生していることから選んだ。菌に寄生するイグチとしては *Xerocomus parasiticus* (*Boletus parasiticus*) が唯一のものであつた。この *Boletus* は欧，米にも比較的珍しいものであり，なによりも寄生という特殊な生態に興味をもたれていた。この茸の寄主は *Scleroderma* (ニセシウロ) 属であるが，浅川のタマノリイグチの寄主はツチグリ (*Astraeus*) である。はじめはこれを *B. parasiticus* と考えたが，寄主がちがうばかりでなく，茸自体の形体にも若干のちがいがあるので新種とした。浅川でも特定の一箇所に発生するだけである。

Agaricaceae マツダケ科

Agaricus arvensis SCHAEFF. ex FR.⁵⁾

和名：オオハラタケ（食，B—T） 分布：欧，米，濠，亞：（小亞），日（北一本）

資料：Ⅹ—17, 1947, leg. IMAZEKI (F. 90)

A. placomyces PK.

和名：ハラタケモドキ（食，B—T） 分布：北米，亞：（支），日（北一本）

資料：Ⅹ—4, 1951, leg. TOKI (F. 2882)

A. silvicola (VITT.) SACC.

和名：シロモリノカサ（食，T） 分布：欧，米，亞，日（北一本）

資料：Ⅹ—6, 1950, leg. TOKI (F. 2263)

A. semotellus IMAI,

和名：ヒメモリノカサ（T） 分布：日本特産（北一本）

資料：Ⅷ—10, 1950, leg. TOKI (F. 2118)

A. subrufescens PK.

和名：ニセモリノカサ（食，T） 分布：北米，亞：（支），日（北一本）

資料：Ⅹ—26, 1949, leg. TOKI (F. 1549)

Amanita Caesarea (SCOP. ex FR.) QUÉL.⁶⁾

和名：タマゴタケ（食，T） 分布：欧，米，亞（印，トルコ）；日（北一九）

資料：Ⅷ—12, 1951, leg. TOKI (F. 2825)

5) ハラタケ属の 種の検索

大形	1
小形 傘は 1~2.5 cm, 赤褐色の鱗状	ヒメモリノカサ
1 鰐は単層, 傘は白色で黄色をおびる	シロモリノカサ
1 鰐は複層	2
2 傘は白色で後黄色をおびる	オウモリノカサ
2 傘は黒褐色の鱗状	ハラタケモドキ
2 傘は赤褐色の鱗状	ニセモリノカサ

6) テングタケ属の 種の検索

外被膜* は茎の基部に袋状の壺として残る	1
外被膜は傘と茎の基部に疣状の附着物として残る	4
1 傘は白色	2
1 傘は黄色, 橙黄色	3
1 傘は灰色, 褐色, 緑褐色	タマゴテングタケ
1 傘は紅色	タマゴタケ
2 茎の表面は鱗状	ドクツルタケ
2 茎の表面は平滑	シロタマゴテングタケ
3 褶, 茎, 鰐は黄色か橙黄色	タマゴタケ
3 褶, 茎, 鰐は白色, 壺は薄く深い	タマゴタケモドキ
3 褶, 茎は白色, 鰐は黄色, 壺は厚く浅い	コタマゴテングタケ
4 傘は深紅色	ベニテングタケ
4 傘は赤褐色, 肉は赤変する	ガンタケ

* 外被膜 (Universal veil) : —茸が蕾の時に外側を覆う膜で, 平滑, 粒状或いは粘質をおびるが, 茸が生長すると, 種類によつて袋状の壺になつたり, 小さく裂けて傘の表面や茎の根元に疣となり, 或いは傘と茎の表面に粒状, もしくは粘性の膜として残る。

A. mappa (BATSCH ex FR.) QUÉL.

和名：コタマゴテングタケ (毒, T) 分布：欧, 米, 濠, 亞：(トルコ), 日 (北一本)

資料：Ⅸ—13, 1949, leg. TOKI (F. 1335)

A. muscaria (L. ex FR.) QUÉL.

和名：ベニテングタケ (毒, T) 分布：欧, 阿, 米, 濠, 亞：(支, トルコ), 日 (北一本)

資料：Ⅸ—13, 1949, leg. TOKI

A. phalloides (FR.) QUÉL.

和名：タマゴテングタケ (毒, T) 分布：欧, 米, 亞：(支, トルコ), 日 (北一本)

資料：Ⅹ—17, 1947, leg. TOKI (F. 86)

A. rubescens (PERS ex FR.) QUÉL.

和名：ガンタケ (食, T) 分布：欧, 米, 濠, 亞：(トルコ), 日 (北一本)

資料：Ⅸ—13, 1949, leg. TOKI

A. subjunquilla IMAI

和名：タマゴタケモドキ (毒?, T) 分布：日本特産 (北一本)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

A. verna (BULL. ex FR.) QUÉL.

和名：シロタマゴテングタケ (毒, T) 分布：欧, 北米, 濠, 亞：日 (北一本)

資料：Ⅹ—17, 1947, leg. TOKI (F. 85)

A. virosa (FR.) QUÉL.

和名：ドクツルタケ (毒, T) 分布：欧, 北米, 亞：日 (北一本)

資料：Ⅹ—17, 1947, leg. TOKI

Amanitopsis agglutinata (BERK. et CURT.) SACC.

和名：フクロツルタケ (T) 分布：欧, 北米, 亞：(支), 日 (北一本)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

A. vaginata (BULL. ex FR.) ROZE

和名：ツルタケ (食, T) 分布：欧, 米, 濠, 亞：(支, トルコ), 日 (北一本)

資料：Ⅶ—4, 1950, leg. IMAZEKI (F. 2130)

Armillaria mellea (VAHL ex FR.) QUÉL.

和名：ナラタケ (食, B—L) 分布：欧, 米, 濠, 亞：(西, トルコ), 日 (北一本)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI (F. 3129)

Claudopus depluens (BATSCH ex FR.) GILL.

和名：カクミノコナカブリ (T) 分布：欧, 米, 亞：日 (本)

資料：Ⅷ—10, 1950, leg. TOKI (F. 2100)

C. nidulans (PERS. ex FR.) KARST.

和名：キヒラタケ (N—B—L) 分布：欧，北米，亞：日 (北一本)

資料：Ⅺ—15, 1950, leg. TOKI (F. 2615)

Clitocybe candicans (PERS. ex FR.) QUÉL.

和名：シロヒメカヤタケ (T) 分布：欧，米，亞：(セイロン，ボルネオ)，日 (本)

資料：Ⅺ—15, 1949, leg. IMAZEKI (F. 1845)

本種の食毒性は不明であるが，白色，小形の *Clitocybe* には毒茸があるから注意を要する。

C. clavipes (PERS. ex FR.) QUÉL.

和名：ホテイシメジ (食，B—T) 分布：欧，北米，亞：日 (北一本)

資料：Ⅺ—17, 1947, leg. IMAZEKI (F. 83)

C. cyathiformis (BULL. ex FR.) QUÉL.

和名：クロサカズキシメジ (食，T) 分布：欧，米，亞：(トルコ)，日 (北一本)

資料：Ⅺ—17, 1947, leg. IMAZEKI (F. 91)

Collybia butyracea (BULL. ex FR.) QUÉL.

和名：エセオリミキ (食，N—T) 分布：欧，米，阿，亞：(西)，日 (北一本)

資料：Ⅺ—19, 1952, leg. IMAZEKI

C. platyphylla (PERS. ex FR.) QUÉL.

和名：ヒロヒダタケ (食，T，B—L) 分布：欧，米，亞：(支，西，トルコ)，日 (北一本)

資料：Ⅺ—19, 1952, leg. IMAZEKI

C. radicata (RELH. ex FR.) QUÉL.

和名：ツエタケ (食，T，B—L) 分布：欧，米，濠，亞：(支，トルコ)，日 (北一本)

資料：Ⅺ—6, 1950, leg. TOKI (F. 2275)

C. velutipes (CURT. ex FR.) QUÉL.

和名：エノキタケ (食，B—L) 分布：欧，阿，米，亞：(支，西，トルコ)，日 (北一本)

資料：Ⅺ—19, 1952, leg. TOKI

Cortinarius caesiocyaneus BRITZ.⁷⁾

和名：アサギフウセンタケ (T) 分布：欧，米，亞：日 (北一本)

資料：Ⅺ—21, 1950, leg. TOKI (F. 2345)

7) フウセンタケ属の種の検索

- 内被膜* はクモの巣状で不粘，傘は粘性，茎は不粘性 1
 内被膜は鏽状にはならず，傘は乾燥して平滑，柄，傘は血赤色 アカタケ
 1 茎の基部は球状に膨らむ，傘は帯緑黄褐色，胞子は大きく $13 \sim 16 \times 7 \sim 8 \mu$ チャオビフウセンタケ 2
 1 茎の基部はそろばん球状に膨らむ 2
 2 傘は黄褐色 マンジユウガサ
 2 傘は橙灰色 アサギフウセンタケ

* 内被膜：(Partial veil) 褶の下面を覆う膜で，傘の縁と茎に連なり，大低傘の縁から離れて，膜状，繊維状，クモの巣状の附属物として茎に残り，これらのものを普通ベールと呼ぶが，特に膜状のものを鏽という。

C. multiformis FR.

和名：マンジウガサ (食, T) 分布：欧, 北米, 亞：日本 (北一本)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI (F. 3133)

C. sanguineus (WULF.) FR.

和名：アカタケ (T) 分布：欧, 米, 亞：(トルコ), 日本 (北一本)

資料：Ⅺ—29, 1948, leg. TOKI (F. 545)

C. triumphans FR.

Epicr., 256 (1836)—GILL., Champ. Fr., 470, tab. 313 (1878)—COOKE, Illustr. Brit. Fung., 682—SACC., Syll. Fung., 5: 889 (1887)—MASS., Brit. Fung. Fl., 2: 94 (1893)—REA, Brit. Basid., 133 (1922)—KONR. et MAUBL., Icon. Sel. Fung., 129 (1929)—LANGE, Fl. Agar. Denm., PL. 85, c (1938)

C. crocolitus QUÉL., 6 Suppl. in Bull. Soc. Bot. Fr., 25: 288 (1878)—SACC., l. c., 5: 890 (1887)—REA, l. c., 135 (1922) *C. triumphans* var. *crocolitus* QUÉL., Enchir., 72 (1886) *Phlegmacium crocolitum* RICKEN, Blätterp., 138, tab. 41 (1912) [New to Japan]

肉眼的特徴：傘は径 3—6 cm, まんじゅう笠状, 縁は内巻, 汚黄橙色 (うぐいす色) を呈するが中央部濃色, 表面は平滑, 粉毛状, 粘性を有し, 表皮は剥げやすい, 肉は厚く, 硬くて白色, 無味無臭; 柄は茎に湧生或いは直生し, はじめ淡い鼠色で, 後たいしや色になる, 縁は細かい欠刻状; 茎は 0.7~1×6~11.5 cm, 基部は球状にふくらみ, 上部の 2 倍に達する, 地色は汚黄色, 表面に褐色, 輪状の縞を有し, 頂端部はやや藤色を呈する, 肉は白色で, 硬く充実する, Cortina は絹絲状で, 厚い層をなし, 不粘性。

顕微鏡的特徴：胞子は 13~16×7~8 μ, 両端の尖つた卵形か, やや菱形で, 表面突状。

和名：チャオビフウセンタケ (新称) (食, T)

分布：欧, 亞：日 (本)

資料：Ⅹ—4, 1951, leg. TOKI (F. 2899)

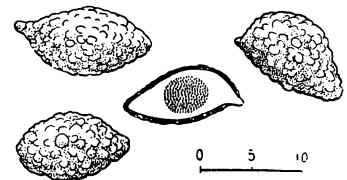


Fig. 4. Spores of *Cortinarius triumphans* FR.

チャオビフウセンタケの胞子

C. cliduchus は本菌に非常に似ているが胞子が小さい (9~11×5~6 μ)。

Cortinellus edodes (BERK) S. ITO et IMAI,

和名：シイタケ (食, B—L) 分布：日本, 支那, セレベス

資料：Ⅸ—13, 1949, leg. TOKI (F. 1340)

Crepidotus mollis (FR. ex SCH.) QUÉL.

和名：チャヒラタケ (B—L) 分布：欧, 米, 亞：日本 (北一本)

資料：Ⅷ—10, 1950, leg. TOKI (F. 2099)

Crepidotus sulphurinus IMAZEKI et TOKI, sp. nov.

Pileo generatim flabelliformis vel reniformis, lateraliter brevissimo stipitato, 0.7—1.3 cm diam., ca 1.5 mm crasso, convex, conchiformi, margine incurvo, superficie pubescenti, sulphurino dein discoloranti, contextu concolori, ad 1 mm crasso, molli sed tenaxi non fragili, ex hyphis laxè irregulariterque intricatis, 4.5—6.5 μ crassis composito, ex strato inferiori (trama) distincto, trama ex hyphis 3~4 μ crassis radialiter ordinatis composita, vivo cum contextu superiori subconcolori, sicco brunnescenti gelatinescentique; stipite laterali, raro absenti, brevissimo, 0.5—1 mm longo, pubescenti, flavo; lamellis adnatis, $\pm$ distantibus ca 1 mm latis, 200 μ crassis, primo flavidulis, dein ferruginescentis, acie fimbriatis, ex paracystidiis (cellulae marginalis) ornatis; paracystidiis clavatis, apice obtusis vel raro mucronatis, tenue tunicatis, hyalinis, laevibus, raro incrustatis, 31—44 $\times$ 8—13 μ ; sporis subglobosis, apiculatis, flavo-brunnescentis, echinulato-verrucosis, 7~10 $\times$ 6~9 μ , bisporis.

Nom. jap.: Zaramino-chahira, nov.

Hab.: on dead trunk of *Wisteria floribunda*.

Materials: Ubutimura, Usui-gun, pref. Gunma, leg. IMAZEKI, on *Wisteria floribunda*, July 10, 1951 (F. 2790—Typus): Asakawa, Minamitama-gun, pref. Tokyo, leg. TOKI, on *Wisteria floribunda*, Oct. 26, 1949 (F 1560).

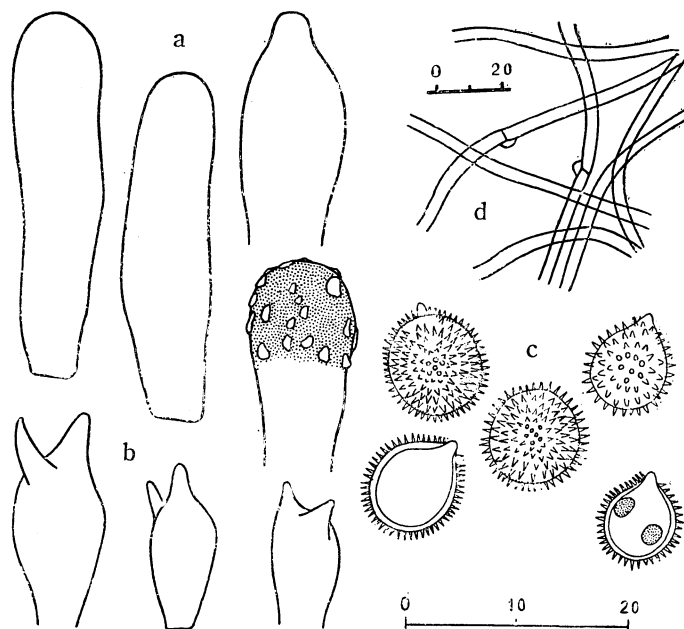


Fig. 5. *Crepidotus sulphurinus* IMAZ. et TOKI

a) cystidia, b) basidia, c) spores, and d) hyphae of the pileus

ザラミノチャヒラの cystidia (a), basidia (b), 孢子 (c) および傘の組織の菌糸

Notes: The writers have collected this new *Crepidotus* at Asakawa and also in the prefecture Gunma. Both grew on dead trunk of *Wisteria*. The

plant is characterized by the brilliant sulphur yellow pileus which is fairly tenacious owing to the hyphae of the context being hardly differentiated from the vegetative hyphae, and the echinulate, subglobose spores which are born two on basidia.

肉眼的特徴：傘は径 0.7~1.3 cm, 腎臓形で後部に深い切れこみがある, 縁は内に巻く, 表面は硫黄色, 長い粗毛が密生, 不粘性, 肉は硫黄色, 柔軟, 強靱で裂け難い; 茎は極めて小さく, 0.5~1×1 mm, 表面は粉状, 黄色, 傘に偏生するが, 傘の後縁と基物面とは硫黄色の菌糸によつて密着し, 傘は側着または半ば背着生の観を呈する; 欄は茎に着生, 薄く, はじめ黄色, 後黄褐色になり, 縁に細かい鋸歯をおびる; 胞子紋は銹色。

顕微鏡の特徴：表皮は分化しない, 肉は径 $5\sim7\mu$ の菌糸が不規則に, 弛やかにもつれあう, clamp connection は有る; basidia は 2 つの胞子をつける; 胞子は類球形, ぎぼうし形, 表面に細かい刺をおび, 黄褐色, $7\sim10\times6\sim9\mu$; cystidia は欄の縁にだけあり, 棍棒状, $8\sim13\times31\sim44\mu$, 先端に結晶をつけ, また乳頭突起があるものもある。

和名：ザラミノキチャヒラタケ (新)

本種ははじめ浅川で発見し, 従来未知の種と考えていたが, その後, 群馬県碓氷郡烏淵村でも採集, 後者をタイプとして上記の名を与えた。2 度ともフジの枯れた茎に生えていたが, 寄主の選択性については今後たしかめていきたい。傘があざやかな硫黄色を呈すること, 肉が比較的丈夫なこと, 胞子に細かい刺があること, basidia 上に 2 個づつ作られることなどが特長である。

Crinipellis stipitarius (Fr.) Pat.

Journ. Bot. 336 (1839)—REA, l. c., 534 (1922)—KONR. et MAUBL., l. c., 221 (1933)—HONGO, Journ. Jap. Bot., 27: 368 (1952)

Collybia stipitaria GILL., Champ. Fr. 319 (1878)

Marasmius stipitarius (Fr.) LANGE, l. c. 2: 28, pl. 49 (1936)

肉眼的特徴：傘は 0.5~0.8 cm, 表面が一樣に栗色の光沢ある長い毛で被われ, 毛皮状を呈す, 中央部には平らな黒色の小斑点がある; 茎は $0.1\times2\sim4$ cm, 表面は傘と同色同状; 褶は離生, 白色。芝生上に孤生, 群生。

顕微鏡の特徴：胞子はほぼ楕円形で, $8\sim10\times4\sim4.5\mu$; cystida は欄の縁にあり, 太さ $4\sim5.5\mu$, 透明で, 棍棒状を呈し, 先端鈍頭か, とがる; 傘面の毛は黄褐色を呈し, 膜は非常に厚い, $4.5\sim8\times90\sim200\mu$ 。

和名：ニセホウライタケ 分布：欧, 亞：日本 (本)

資料：V—5, 1951, leg. TOKI (F. 2731)

最近本郷次雄氏が天津附近で採集し, ニセホウライタケの和名をつけて報告された。分布は広いものであろう。

Entoloma crassipes IMAZEKI et TOKI, sp. nov.

Solitarium vel subcaespitosum. Pileo 7—12 cm lato, primo conico-convexo, dein umbonato-applanato, margine juventate incurvato, superficie sicco, glabro (covered with thin, silky, whitish fibrils, which radially splitting afterward), “Snuff brown” vel “Saccardo’s brown”, lineato-maculato, carne albida, tenui, ad 8 mm crassa, odore nullo, sapore leniter farinoso; lamellis primo sordide albidis (Pale olive buff), dein pallide carneis (Pale pinkish cinnamon), distantibus, juxta stipitem ad 1.5 cm latis, ad stipitem acute ascendentibus, sinuato adnexas, separabilis, acie undulato-dentatis; stipite 1.5~2×10~18 cm, equalis vel deorsum leniter incrassato, albido, glabro, carne solida; sporis in cumulo “Light vinaceous cinnamon” vel “Light pinkish cinnamon”, lati-ellipsoideis vel subglobosis, angulatis, 10—12 (—14)×8—10 μ . “Esculentum”

Nom. jap.: Urabeni-hotei-simezi, nov.

Hab.: in frondose woods (*Quercus* sp.)

Materials: Asakawa, Oct. 4, 1951, leg. TOKI (F. 2947—Typus); do., Aug. 20, 1951, leg. TOKI (F. 2818); do., Oct. 6, 1950, leg. TOKI (F. 2281); Huziyama-mura, Tiisagata-gun, pref. Nagano, Oct. 11, 1948, leg. IMAZEKI et TOKI (F. 975); do., Oct. 10, 1949, leg. IMAZEKI et TOKI (F. 1453); do., Oct. 8, 1951, leg. TOKI (F. 2853); Nagasino-mura, Kawati-gun, pref. Totigi, Oct. 1952, leg. ISIZIMA K. (F. 3181); Nagahasi-mura, Kitatugaru-gun, pref. Aomori, Oct. 1952, leg. TOKI

This is a good edible mushroom in the field, and is sold in the market at Asakawa, every autumn. The genus *Entoloma*, however, is a group cumbersome to be distinguished the species poisonous and edible each other, particularly by the amateur mushroom hunter. There happen several cases poisoned by *Entoloma* which is supposed to be *E. rhodopolium* or *E. lividum*. The present species and *E. rhodopolium* grow in the same season and often in the same woods. Although the practised mushroom collectors can easily distinguish this from the other *Entoloma*, the careful attitude is needed in using an *Entoloma* for the table.

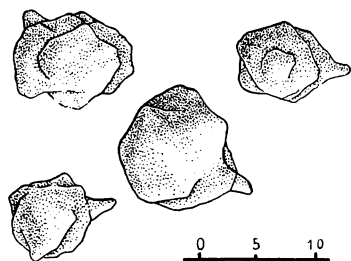


Fig. 6. Spores of *Entoloma crassipes*
IMAZ. et TOKI.

ウラベニホテイシメジの胞子

Entoloma crassipes is characterized by the large, solid fruitbody, the color of pileus which is dry, brownish-gray (Snuff brown of RIDGEWAY), not hygrophanous and finely streaked with short adpressed fibrils, and the large, stout and solid stem. The odor is almost none while the other *Entoloma*, especially in poisonous ones, have frequently a strong disagreeable odor. The taste is mild when fresh but becomes slightly bitter

when cooked. Microscopically, the spores of *E. crassipes* are more roundish (10—12×8—10 μ) than those of *E. rhodopolium* (10—12×7—8 μ).

肉眼的特徴：孤生又は2～3個簇生；傘は径7～12 cm，はじめ鈍頭の円錐形，後開いて市女笠状になる，縁は幼時内に巻く；表面乾燥，平滑，帶褐鼠色（Snuff brown-Saccardo's

umber), であるが, 白色絹絲状の繊維で薄くおおわれ, 後, 微細な白と鼠色の緋状を呈する, 肉は白色で薄く, 無味, ほとんど無臭であるが, 嚙むと口中に糠の臭を残す; 褶は幼時汚白色 (Pale Olive buff), 後, 淡い肉色 (Pale pinkish cinnamon); 疎生, 巾広く (1.5 cm のものもある), 小さく深く直生状に湧生, 肉から離れやすい; 縁は粗い波状, 鋸歯状; 茎は 1.5 ~ 2×10~18 cm, 傘に比べて長く, ほぼ上下同大, 少しく下方に太まるが時には徳利状をなす; 表面は白色, 無毛, 内部充実して, 硬く, 縮れた繊維状肉質, 孢子紋は桃褐色 (Light vinaceous cinnamon—Light pinkish cinnamon)。

顕微鏡的特徴: 孢子は類球形, 多角形, $10\sim12(\sim14)\times8\sim10\mu$; cystidia なし。

考察: 本菌は *E. rhodopolium* (クサウラベニタケ), *E. nidorosum* (コクサウラベニタケ) に似ているものであるが, 後者は本菌より小さく, 茎は中空, 臭の強いものであり, 前者は本菌に最も近いとはいえ, 茎が細長く中空で, 本菌の充実し太い茎とははなはだ異なる。また本菌の孢子は類球形, 多角形 ($10\sim12\times8\sim10\mu$) で, 楕円形, 多角形 ($10\sim12\times7\sim8\mu$) の前者の孢子より丸味をおびる。本菌は優れた食菌で, 質は堅くてしまり, 茸も大形であり, クサウラベニタケのごとき毒菌と区別することは, 馴れれば大してむずかしくないので各地で食用にしている。しかしクサウラベニタケもほとんど同じ山に, 同じ時期に発生するから細心の注意が必要である。

***E. rhodopolium* (Fr.) QuéL.**

和名: クサウラベニタケ (毒, B—T) 分布: 欧, 北米, 亞: (トルコ), 日 (北一本)

資料: X—4, 1951, leg. TOKI (F. 2901)

***E. turbidum* (Fr.) QuéL.**

和名: コニセイツボンシメヂ (食, T) 分布: 欧, 亞: 日 (本)

資料: leg. IMAI (in Herb. Hokk. Univ.)

***Gomphidius roseus* (Fr.) Gill.**

和名: オオギタケ (食, T) 分布: 欧, 北米, 亞: 日 (本)

資料: X—4, 1951, leg. TOKI (F. 2904)

Hygrophorus erubescens Fr.⁸⁾

和名：オオサクラシメヂ (食, T) 分布：欧, 北米, 阿, 亞：(西), 日 (本)

資料：Ⅹ—4, 1951, leg. TOKI (F. 2907)

H. coccineus (SCHAEFF.) Fr.

和名：ベニヤマタケ (食, T) 分布：欧, 北米, 濠, 亞：日本 (北一本)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

H. conicus (SCOP.) Fr.

和名：アカヤマタケ (食, T) 分布：欧, 米, 濠, 亞：(トルコ), 日 (北一本)

資料：Ⅹ—26, 1949, leg. TOKI (F. 1567)

H. miniatus Fr.

和名：アカヌマベニタケ (食, T) 分布：欧, 米, 濠, 亞：(印), 日 (北一本)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

H. obrusseus Fr. f. **pusillus** IMAI

和名：ヒメキヤマタケ (T) 分布：日本 (本)

資料：leg. IMAI (in Herb. Hokk. Univ.)

H. ovinus (BULL.) Fr.

和名：オオヒメノカサ (食, T) 分布：欧, 北米, 亞：日 (本)

資料：Ⅹ—26, 1949, leg. TOKI (F. 1566)

H. pratensis (PERS. ex Fr.) Fr.

和名：ハダイロガサ, オトメノハナガサ (食, T) 分布：欧, 米, 亞：日本 (本)

資料：Ⅹ—21, 1950, leg. TOKI (F. 2346)

8) アカヤマタケ属の種の検索

外被膜は粘る	1
外被膜はなく, 粘らない, 質は硬い	2
外被膜はない, 湿潤性*, 質は脆い	3
1 傘はばら色, 肉は黄色を散らす	オオサクラシメヂ
1 傘は暗赤褐色, 肉も同色	コサクラシメヂ
1 傘はアズキ色	ヒメサクラシメヂ
2 傘は白色, 褶は垂生	オトメノカサ
2 傘は肌色, 褶は垂生	ハダイロガサ
3 褶は垂生	4
3 褶は上生, 直生	6
4 傘は粘る, 赤血色	ベニヤマタケ
4 傘は粘らない, 鱗片状	5
5 傘は朱色	アカヌマベニタケ
5 傘は黄褐色	ザラツキキヤマタケ
6 傘は緋色, 黄色で住々緑色にくまどられ, ついに黒色になる	アカヤマタケ
6 傘ははじめ緑色, 後橙色, 遂に紫色を帯びる	ワカクサタケ
6 傘は黄色, 非常に小さく 1.5 cm	ヒメキヤマタケ

* 湿潤性：(Hygrophanous) 傘の表面が湿つたときには水つばい半透明状の観を呈するが, 乾くと白つぽくなるような性質をいう。

H. psittacinus (SCHAEFF.) FR.

和名：ワカクサタケ (T) 分布：欧，北米，亞：日本 (本)

資料：leg IMAI (in Herb. Hokk. Univ.)

H. purpureo-badius IMAI

和名：ヒメサクラシメジ (食，T) 分布：日本 (本)

資料：Ⅹ—26, 1949, leg. TOKI (F. 1568)

本種は浅川試験林を Type locality とするものである。

H. turundus FR.

和名：ザラツキキヤマタケ (T) 分布：欧，亞：日本 (本)

資料：leg. IMAI (in Herb. Hokk. Univ.)

H. virgineus (WULF.) FR.

和名：オトメノカサ (食，T) 分布：欧，南北米，濠，阿，亞：日 (北一本)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI

Hypholoma appendiculatum (BULL.) FR.⁹⁾

和名：イタチタケ (食，B—T) 分布：北米，欧，亞：日本 (本)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI

H. fasciculare (HUDS. ex FR.) QUÉL.

和名：ニガクリタケ (毒，N—L) 分布：欧，北米，濠，亞：日 (北一九)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI

H. lateritium (SCHAEFF. ex FR.) SCHROET.

和名：クリタケ (食，B—L) 分布：欧，米，亞：(支，西，トルコ)，日 (北一本)

資料：Ⅺ—21, 1950, leg. TOKI (F. 2347)

H. velutinum (PERS. ex FR.) QUÉL.

和名：ムジナタケ (T) 分布：欧，北米，亞：日本 (北一本)

資料：Ⅷ—12, 1951, leg. TOKI (F. 2833)

9) イタチタケ属の種の検索

- 傘は平滑 1
- 傘は繊維状，暗褐色，胞子には細かい疣がある，胞子紋はほとんど黒色 ムジナタケ
- 1 傘は湿潤性，質脆く，淡灰褐色，胞子 $7\sim 8\times 4.5\mu$ イタチタケ
- 1 傘は湿潤性でない，やや強靱 2
- 2 傘は硫黄色，褶ははじめ硫黄色，後帯緑色，味はにがい ニガクリタケ
- 2 傘は栗色，褶は帯黄白色 クリタケ

Inocybe fastigiata (SCHAEFF. ex FR.) QUÉL.¹⁰⁾

和名：オオキヌハダトマヤタケ (T) 分布：欧，米，亞：日 (本)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI

I. geophylla (SOWERB. ex FR.) QUÉL.

和名：シロトマヤタケ (T) 分布：欧，米，亞：(西，小亞)，日 (北一本)

資料：Sept. 30, 1949, leg. KOBAYASHI-Y. (N. S. M.)

I. microspora LANGE

和名：コアセタケ (新) (T) 分布：欧，亞：日 (本)

資料：Sept. 30, 1949, leg. KOBAYASHI-Y. (N. S. M.)

I. lacera (FR.) QUÉL.

和名：クロトマヤタケ (T) 分布：欧，北米，亞：日 (北一本)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

I. rimosa (BULL. ex FR.) QUÉL.

和名：アセタケ (毒, T) 分布：欧，米，亞 (西)：日 (北一本)

資料：Ⅹ—13, 1949, leg. TOKI. (F. 1345)

I. umbratica QUÉL.

和名：シロニセトマヤタケ (T) 分布：欧，亞：日 (北一本)

資料：leg. IMAZEKI (N. S. M.)

Laccaria amethystea (BULL.) MURRILL

和名：ウラムラサキ (食, T) 分布：欧，北米，亞：日 (北一本)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI

L. laccata (SCOP. ex FR.) BERK. et BR.

和名：キツネタケ (食, T) 分布：欧，米，濠，亞：(トルコ，支)，日 (北一本)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI

10) アセタケ属の種の検索

- 傘は鱗状，暗褐色 クロトマヤタケ
- 傘は繊維状 1
- 1 傘は黄褐色 2
- 1 傘は白色 4
- 2 傘は放射状の大きな裂け目がある，Cyst. は膜が薄い オオキヌハダトマヤタケ
- 2 傘は細かい裂け目がある Cyst. は膜が厚い 3
- 3 胞子は $8\sim10\times5\sim5.5\mu$ アセタケ
- 3 胞子は $6\sim7.5\times4\sim4.5\mu$ コアセタケ
- 4 径 $2\sim5\text{ cm}$ ，胞子は多角形 シロニセトマヤタケ
- 4 径 2 cm ，胞子は平滑，Cyst. は膜が厚い シロトマヤタケ

Lepiota acutesquamosa (WEINM.) GILL.¹¹⁾

和名：オニタケ (食, T) 分布：欧, 北米, 亞：日 (北一本)

資料：Ⅹ—4, 1951, leg. TOKI (F. 2919)

L. clypeolaria (BULL. ex FR.) QUÉL.

和名：ワタカラカサタケ (食, T) 分布：欧, 北米, 亞：日本 (北一本)

資料：Ⅹ—4, 1951, leg. TOKI (F. 2920)

L. cristata (BOLT. ex FR.) QUÉL.

和名：キツネノカラカサ (T) 分布：欧, 米, 濠, 亞：(支, トルコ), 日本 (北一本)

資料：Ⅹ—13, 1949, leg. TOKI (F. 1346)

L. granulosa (BATSCH ex FR.) QUÉL.

和名：ヒメオニタケ (T) 分布：欧, 北米, 亞：日本 (北一本)

資料：Ⅹ—26, 1949, leg. TOKI (F. 1581)

L. procera (SCOP. ex FR.) QUÉL.

和名：カラカサタケ (食, T) 分布：欧, 米, 濠, 阿, 亞：(支, トルコ), 日 (北一本)

資料：Ⅹ—17, 1947, leg. IMAZeki (F. 87)

L. Vittadinii (MOR.) KROMBH.

和名：シロオニタケ (T) 分布：欧, 亞：日本 (本)

資料：Ⅹ—4, 1951, leg. TOKI (F. 2907)

Lentinus lepideus FR.

和名：マツオウジ (食, N—L) 分布：欧, 北米, 濠, 亞：(シベリヤ, トルコ), 日本 (本, 北)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI

Marasmius androsaceus (L.) FR.

和名：オオヒメホウライタケ (N—B—L) 分布：欧, 北米, 亞：日本 (本)

資料：leg. IMAI (in Herb. Hokk. Univ.)

M. confluens (PERS. ex FR.) RICKEN

和名：アマタケ (B—L) 分布：欧, 米, 亞：(トルコ), 日 (北一本)

資料：Ⅵ—23, 1948, leg. TOKI (F. 542)

¹¹⁾ カラカサタケ属の種の検索

- 1 鍔は茎から離れ易い 1
- 鍔は茎から離れず, 大きく, 薄い膜質, 中形 2
- 鍔は傘, 茎の表皮と同じく細粒をおびる, 傘は暗褐色, 高さ 5~3 cm ヒメオニタケ
- 1 大形 (高さ 30~20 cm), 傘は暗褐色, 大きな鱗片をおびる, 茎には蛇紋がある ..カラカサタケ
- 1 小形 (高さ 5~2cm), 傘の地は白色で赤褐色の輪状にならぶ小鱗片がある ..キツネノカラカサ
- 2 傘は黄褐色で, 尖った疣で覆われる オニタケ
- 2 傘は白色で, 大きな疣で覆われる シロオニタケ
- 2 傘, 茎は黄褐色で, 綿毛状の鱗被を被むる ワタカラカサタケ

M. siccus (SCHW.) FR.

和名：ハリガネオチバタケ (B—L) 分布：北米，亞：日 (北一本)

資料：Ⅵ—23, 1948, leg. TOKI (F. 544)

Mycena polygramma (BULL. ex FR.) QUÉL.

和名：アシナガタケ (B—T) 分布：欧，米，亞：(西，トルコ)，日 (北一本)

資料：Ⅹ—17, 1947, leg. TOKI (F. 102)

M. pura (PERS. ex FR.) QUÉL.

和名：サクラタケ (T) 分布：欧，米，濠，阿，亞：(トルコ)，日 (北一本)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI

Omphalia umbratilis (FR.) GILL.

和名：コクロサカヅキタケ (T) 分布：欧，北米，亞：日 (北一本)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI (F. 3137)

O. campanella (BAT. ex FR.) QUÉL.

和名：ヒメカバイロタケ (N—L) 分布：欧，北米，亞：(西，トルコ)，日 (北一本)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI

Panus stipticus (BULL.) FR.

和名：ワサビタケ (B—L) 分布：欧，濠，北米，亞：(西，トルコ)，日 (北一本)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI

Paxillus panuoides FR.

和名：イチヨウタケ (N—L) 分布：欧，北米，濠，亞：日 (北一本)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI

Pholiota adiposa (FR.) QUÉL.¹²⁾

和名：ヌメリスギタケ (食，B—L) 分布：欧，北米，亞：(トルコ)，日 (北一本)

資料：Ⅹ—26, 1949, leg. TOKI (F. 1582)

P. aeruginosa PK.

和名：ミドリスギタケ (N—L) 分布：北米，亞：日 (北一本)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI (F. 3138)

P. caperatus PERS. ex FR.

12) ヌメリスギタケ属の種の検索

地上に生ずる	1
樹上に生ずる	2
1 傘は黄褐色，不粘性	シヨウウンジ
1 傘は黒褐色，粘性	ツチナメコ
2 傘は粘性，大鱗片を有し，黄褐色，潤葉樹上	ヌメリスギタケ
2 傘は乾燥，鱗状，褐色に緑色をくまどる，針葉樹上	ミドリスギタケ
2 傘は湿潤性，平滑，茎は著しい鱗片を有す，小形	センボンイチメガサ

和名：ショウウンジ (食, T) 分布：欧, 北米, 亞：(トルコ), 日 (北一本)

資料：X—19, 1952, leg. TOKI

P. erebia (FR.) GILL.

和名：ツチナメコ (食, T) 分布：欧, 北米, 濠, 亞：日 (北一本)

資料：X—19, 1952, leg. TOKI

P. mutabilis (SCHAEFF. ex FR.) QUÉL.

和名：センボンイチメガサ (食, N—B—L) 分布：欧, 北米, 亞：日 (本)

資料：X—30, 1948, leg. TOKI (F. 1591)

Pleurotus serotinus (PERS. ex FR.) GILL.

和名：ムキタケ (食) 分布：欧, シベリヤ, 北米, 濠, 亞：(トルコ), 日本 (本—北)

資料：X—19, 1952, leg. TOKI (F. 3146)

考察：本種は普通ブナに生えるブナ帯の茸と考えられているが、本種が海拔 200 m 前後の、東京近郊の低い山に産することは興味がある。

Stropharia aeruginosa (CURT. ex FR.) QUÉL.

和名：モエギタケ (毒, T) 分布：欧, 北米, 亞：(トルコ), 日 (北一本)

資料：X—19, 1952, leg. TOKI (F. 3143)

Tricholoma albobrunneum (PERS. ex FR.) QUÉL.¹³⁾

和名：マツシメジ (食, N—T) 分布：欧, 亞：日 (本—北)

資料：X—4, 1951, leg. TOKI (F. 2931)

T. japonicum KAWAMURA

和名：シロシメジ (食, T) 分布：日本 (本)

資料：X—19, 1952, leg. TOKI

T. nudum (BULL. ex FR.) QUÉL.

和名：ムラサキシメジ (食, B—T) 分布：欧, 濠, 北米, 亞：(トルコ), 日 (北一

¹³⁾ シメジ属の種の検索

- 傘は粘性, 繊維状 1
- 傘は不粘性 2
- 1 欄の色は不変, 傘の地は黄色で, 表面は黒色繊維状 アイシメジ
- 1 欄は褐色に変る, 傘は濃赤褐色 マツシメジ
- 2 傘は鱗片状, 鱗状, 粒状の毛をおびる 3
- 2 傘は平滑 4
- 3 欄の色は黄色, 不変, 傘は赤褐色粒状の毛をおびる, 針葉樹切株上 サマツモドキ
- 3 欄の色は灰白色, 褐変, 傘は黒褐色の大きな鱗片を被むる クロキシメジ
- 3 欄の色は白色, 褐変, 傘は黒褐色の小さい鱗片を被むる クマシメジ
- 3 欄は白色で縁が淡い紅色をおび, 傘は黒褐色繊維状 ケショウシメジ
- 4 傘は灰緑色, 茎は黒色の繊維を被むる ミネシメジ
- 4 傘は紫色 ムラサキシメジ
- 4 傘は灰白色で, 傷つくか, 乾くと黒変する スミズキシメジ
- 4 傘は乳白色 シロシメジ

本) 資料: X—4, 1951, leg. TOKI (F. 2932)

T. orirubens QUÉL.

1. c., 2: 327 (1873) —SACC., 1. c., 5: 104 (1887) —RICKEN, 1. c., 337 (1914)
—REA, 1. c., 224 (1922) —KONR. et MAUBL., 1. c., 255 (1927)

Agaricus terreus var. *orirubens* COOKE, Handb. Brit. Fung., 2: 31 (1883);
1. c., 86 (1881) [New to Japan]

肉眼的特徴: 傘は径 4~6 cm, 市女笠状, 色は灰褐色, 中央部では黒褐色を呈する, 表面は粒状或いは小鱗片状をおびる, 肉は白色であるが外気に触れると淡いばら色を帯び, 薄くて, 脆い; 欄は茎に嚢生し, 白色であるが, 縁がばら色を帯び, 疎である; 茎は 0.5~1×5~7 cm で, 下部ほど太い, 表面は白色, 基部はばら色を帯び, 綿毛状の繊維を纏う, 肉は充実し, 白色であるが傘と同様に変色する。

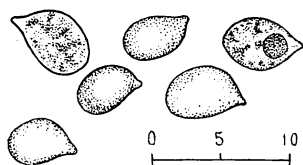


Fig. 7. Spores of *Tricholoma orirubens* QUÉL.

ケシヨウシメジの胞子

顕微鏡的特徴: 胞子は楕円形, 平滑で 4.5~5.5×3.5~4.0 μ ; clamp-connection を有する; 表皮の組織は平行菌絲であり, 傘の鱗片はこの層がちぎれて, 反転したものである。

和名: ケシヨウシメジ (新称) (T)

分布: 欧, 亞: 日 (本) 資料: X—17, 1947, leg. IMAZEKI (F. 84)

考察: 2, 3 の近縁の種があるが, 欄茎肉がばら色に着色することが最大の特徴で, これによつてクマシメジ *T. terreum*, アクゲシメジ *T. sculpturatum* 等と区別され, また *T. atosquamosm* は欄に marginal cell があつて本菌と異なる。和名は化粧シメジの意味である。

T. rutilans (SCHAEFF. ex FR.) QUÉL.

和名: サマトモドキ (食, N—L) 分布: 欧, 北米, 濠, 亞: (トルコ), 日 (北一本)

資料: X—4, 1951, leg. TOKI (F. 2935)

T. saponaceum (FR.) QUÉL. var. *squamosum* (COOKE) REA

1. c., 227 (1922) —KONR. et MAUBL., 1. c., 245 (1927)

Agaricus saponaceus var. *squamosus* COOKE, Handb. Brit. Fung., 2: 33 (1883); 1. c., 89

Tricholoma saponaceum var. *adosiaca* BRES., Ic. Myc., 2: 86 (1927) —LANG.,

1. c., 1: 60, pl. 26 (1935) [New to Japan]

肉眼的特徴: 傘は 3.5~7 cm, はじめ半球形, 次第に開いて偏平から更に皿状ないし鉢状になるが, 中央部は少しく突出する, 色は幼時は帯緑, 或いは暗い煙草色, 後くすんだ緑色となり, ついに帯緑灰白色か, 淡灰白色になる, 表面はやや湿潤性であるが粘らず, 煤色の粒状の柔毛を密生する, 表皮は剥げやすい, 肉は厚く, 白色, 割合に硬く, 傷つけば徐々に帯褐ピンク色に変色する; 欄は茎に嚢生し, はじめ白色或いは乳白色であるが, 傷つけば帯褐ピンク色

に変色する, 比較的厚く, やや疎である; 茎は $2.5 \sim 8 \times 0.8 \sim 1.5$ cm, 下部はやや紡錘形にふくらむか基部で細まり, 色は汚緑色で, 上部或いは老成すると帯褐或いは帯黒白色になる, 表面は煤色の毛が鱗状に附着し, 触れると容易に落ちる, 肉は縮んだ繊維状で, 粗に填まり, 汚白色で, 基部が帯褐ピンク色に変る; 臭は青臭いが, 清涼な刺戟臭がある, 噛むと味はないが口中に青臭いにおいを残す。

顕微鏡的特徴: 胞子は $5 \sim 6.5 \times 2.5 \sim 4.5 \mu$, 楕円形で, 平滑である; cystidia はない; 傘の組織は全体もつれあつた菌糸からなり, 表皮の分化は顕著でないが, 菌糸の先端が棍棒状に膨れ淡い煤色を呈す, 菌糸には多くの clamp-connection が認められる。

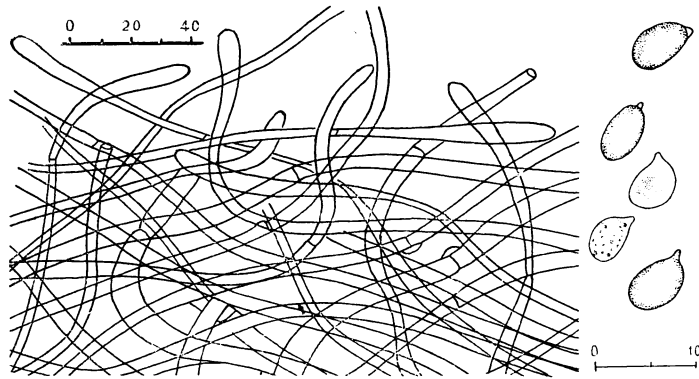


Fig. 8. *Tricholoma saponaceum* var. *squamosum* (CKE.) REA
Spores and pyphae of the surface of the pileus.

ミネシメジの胞子と傘の表面の菌糸

和名: ミネシメジ (新称) (T) 分布: 欧, 亞: 日 (本)

資料: VII—23, 1945, leg. TOKY (F. 1586)

考察: *T. luridum*, *T. album* は本菌に似てゐるものであるが, とともに柄が変色せず, ことに前者はアセタケのように表皮が裂けてくる。*T. saponaceum* および他の変種は茎が鱗状でないことで異なる。

T. semitale (Fr.) RICKEN

l. c., 358 (1914) —KONR. et MAUBL., l. c., 251 (1926)

Agaricus semitalis Fr., Epicr., 82 (1836) —COOKE, l. c., 184 (1883)

Collybia semitalis QUÉL. Champ. Jura Vosg., 1: 92 (1872) —SACC. Syll. Fung. 5: 204 (1887) —REA, l. c., 329 (1922)

Tricholoma aggregatum var. *semitale* L. MATRE, Etude synth. sur le genre Trichol., 69 (1916) [New to Japan]

肉眼的特徴: 傘は径 3.5~4 cm, はじめ半球形, 後まんじゆ笠状になり, ついに平らになる, 色は茶をおびた鼠色で, 後淡色になり, やや湿潤性で乾くと白つぽく褪色する, 表面は平滑で表皮は剥げやすい, 縁ははじめ内がわに巻き, 筋が透視される, 肉は薄いが比較的強靱で淡鼠色を帯びる; 柄は湾生または上生, 巾広く, ややあらく, 短いものを多くまじえる, 縁は

大きく波状を呈する，色は淡鼠色で傷つけば黒くなる；莖はやや軟骨質で，ほとんど上下同大か，下部太くなり， $5\sim 4\text{ cm}\times 0.5\sim 1\text{ cm}$ ，表面は帯白鼠色で，絹糸状，上部は細かい鱗片を帯び，基部には長く，白い粗毛が密生する，傷つけば黒変する，内部は鼠色で，はじめ髄を有し，後中空となる，乾燥すると全体黒褐色ないし黒色になる；孢子紋は白色。

顕微鏡的特徴：孢子は大きさ $6.5\sim 9\times 4.5\sim 5\mu$ で，両端の尖つた卵形，或いはやや菱形を呈し，平滑である；傘の組織は表皮，肉質層に分れ，表皮は平行に走る菌糸からなり，細く， $2\sim 3.5\mu$ ，肉質部の菌糸ははるかに太い，clamp connection は多数認められる。

松林の地上に群生。

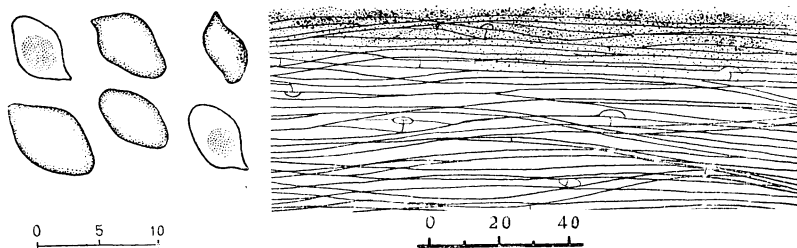


Fig. 9. *Tricholoma semitale* (Fr.) Rick. Spores and the radial section of the upper surface of the pileus.

スミゾメシメジの孢子と傘の上面表層部の放射断面

和名：スミゾメシメジ（新称）（食，T） 分布：欧，亞：日（本）

資料：X—26, 1949, leg. TOKI (F. 1559)

考察：本菌は *T. infumatum*, *T. immudum*, *T. trigonosporum* とともに黒変するグループであるが，この3菌に比して最もエノキタケ属 *Collybia* に近い種である。

T. sejunctum (Sow. ex Fr.) QUÉL.

和名：アイシメジ（食，T） 分布：欧，北米，亞：日（本—北）

資料：X—19, 1952, leg. TOKI (F. 3144)

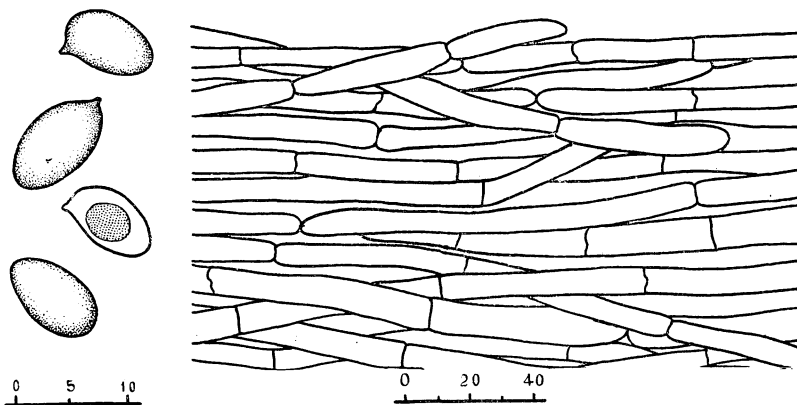


Fig. 10. *Tricholoma squarrulosum* BRES. Spores and the radial section of the upper surface of the pileus.

クロゲシメジの孢子と傘の上面表層部の放射断面

T. squarrulosum BRES.

和名：クロゲシメジ (食, T) 分布：欧, 亞：日 (本—北)

資料：Ⅺ—6, 1949, leg. TOKI (F. 1608)

T. terreum (SCHAEFF. ex FR.) QUÉL.

和名：クマシメジ (食, T) 分布：欧, 北米, 亞：日 (本—北)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI

Russulaceae ベニタケ科**Lactarius acris** (BOLTON ex FR.) FR.¹⁴⁾

Epicr. Myc. 342 (1838) —CKE. 1. c., 941 (1888) —RICK. 1. c., 32 (1910) —
 REA, 1. c., 485 (1922) —LANGE, Stud. Agar. Denm., 7: 32 (1928) —B. KNAUTH &
 W. NEUHOF, Die Pilze Mittel., 2: 39, taf. 6 (1937) [New to Japan]

肉眼的特徴：傘は 2.5~6 cm で灰黄褐色ないし暗黄褐色を呈し、中央部が少し凹むか、やや漏斗状をなし、表皮が剥げる、表面は粉状で中央部に小皺がある、肉は傷つけば速やかに桃色に変じ、刺激的な著しい辛味がある；褶は直生で柄に流れ、クリーム色、やや密でかつ薄い；茎は 0.5~1 cm×2.5~6 cm、ほとんど上下同大、傘と同色か淡色をなし、粉状を呈する、内部は疎な髓で填まる；乳ははじめ白色、乳状であるが急速に桃変し、後凝固して黄白色となる；胞子紋はクリーム色。

14) テチタケ属の種の検索

- | | |
|--|------------|
| 乳は橙黄ないし赤橙黄色 | 1 |
| 乳ははじめ白色であるが、後変色 | 2 |
| 乳は白色で変色しない | 4 |
| (乳は血赤色で青変する ハツダケ) | |
| 1 傘は鮮橙黄色、モミ林に多い | アカモミタケ |
| 1 傘は暗橙黄色、傷つけば著しく青変、マツおよびトウヒ類に多い | アカハツ |
| 2 乳は緑色に変る、傘は淡い黄色、粘性、味は辛くない、モミ林に生ずる | キハツダケ |
| 2 乳は紫色に変る、傘は紫灰色ないし淡栗褐色、同心環がある | トビチヤチタケ |
| 2 乳は僅かに青色に変る、傘は白色 | カワチタケ |
| 2 乳は淡赤色に変る | 3 |
| 2 乳は淡褐色に変る | 10 |
| 3 褶は非常に疎、傘は鼠褐色、味辛い | ヒロハウスズミチタケ |
| 3 褶はやや密、傘は灰褐色、味辛い。降雨時には傘は粘性 | ハイイロカラチタケ |
| 4 乳は辛い | 5 |
| 4 乳は辛くない | 9 |
| 5 傘の表面はビロード状 | 6 |
| 5 傘の表面は平滑 | 7 |
| 6 傘は白色、褶ははなはだ密 | ケンシロタツモドキ |
| 6 傘は白色、褶は疎 | ケシロハツタケ |
| 7 傘は白色 | 8 |
| 7 傘は汚褐色、小形、緩慢に辛くなる | ヒメチタケ |
| 8 茎は短太、やや密 | ツチカムリ |
| 8 茎は細長い、はなはだ密 | カワチタケ |
| 8 褶ははなはだ疎、傘面平滑、橙黄色 | ヒロハチタケ |
| 9 褶はやや密 | 10 |
| 10 褶は暗赤褐色、傘は濃赤褐色 | チリメンチタケ |
| 10 褶は淡橙白色、傘は橙黄色 | チタケ |

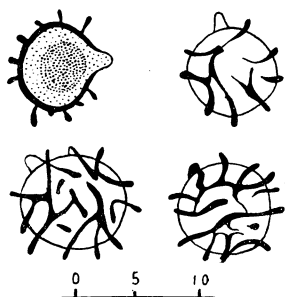


Fig. 11. Spores of *Lactarius acris* (BOLT. ex FR.) FR.
ハイイロカラチタケの孢子

顕微鏡的特徴：傘面は *L. subplinthogalus* と同様に薄膜の短い毛で被われる，孢子は $7.5 \sim 8.5 \times 6.5 \sim 7.5 \mu$ (網目を除いて)，類球形（稀に広楕円形），表面は網目状。

和名：ハイイロカラチタケ（新称）

分布：欧，亞：日（本）

資料：X—4, 1951, leg. TOKI (F. 2910)

考察：本菌は *L. fuliginosus*, *L. azonites* に最も近いものであるが次にその比較を記す。

	<i>L. fuliginosus</i>	<i>L. azonites</i>	<i>L. acris</i>
味	やや辛い	なし	はなはだ辛い
乳の変色	白色，不變 (肉は人參色に漸變，2分後)	"	さんごーばら色に急變
傘面 (雨)	不粘	"	はなはだ粘る
乾	細かいビロード状	"	粉状
孢子	$9 \sim 11 \times 9 \sim 10 \mu$	$7 \sim 8 \times 6.5 \sim 8 \mu$	$7.5 \sim 9 \times 7 \sim 8 \mu$

なお，KNAUTH & NEUHOFF によれば *L. azonites* BRES. は *L. acris* であるという。

L. corrugis PK.

Rep. N. Y. St. Mus., 32:31 (1880) —SACC., Syll. Fung., 5:449 (1888) —
ATKINSON, Mushroom, 116 (1903) —COKER, Journ. Mitch. Soc., 34:55 (1918)
—MURRILL, Lloydia, 2: (1948) [New to Japan]

肉眼的特徴：傘は径 4~7 cm，饅頭笠状で中心やや凹み，暗橙赤色で，表面細かいビロード状を呈する，肉ははじめ白いが外気に触れると赤褐色に変る；欄は幼時朱色に近いが，後淡い黄褐色になり，また傷つけば濃色になる；茎は $3.5 \sim 5 \times 0.7 \sim 1$ cm で，傘面と同じ色か或いは淡く，粉状を呈し，内部はフェルト状の肉が粗く填まっている；乳液は白く，多量で，やや渋味を有し，次第に褐変する。

顕微鏡的特徴：孢子は $8 \sim 11 \times 10 \sim 11 \mu$ ，類球形で，網目状の皺を有する；cystidia は $6 \sim 8 \times 50 \sim 70 (\sim 95) \mu$ ，紡錘形，表面に凹凸があり，次第に細胞膜が内側に厚くなり，それに伴い無色から淡褐色に変る；また傘面にも cystidia 状の細胞が密生し， $3 \sim 6 \times 20 \sim 60 (\sim 100) \mu$ ，棒状を呈し，次第に膜が厚くなり，表皮の球形細胞から直接に生える。

和名：チリメンチタケ（新称）（食，T） 分布：北米，亞：日（本）

資料：Ⅸ—13, 1949, leg. TOKI (F. 1350)

考察：従来本菌とチタケ *L. volemus* とは，傘の表面が平滑か，細かいビロード状か，平らか，著しいチリメン状の皺があるか，また欄の色が乳白色か，暗赤褐色かなどで区別してきた。

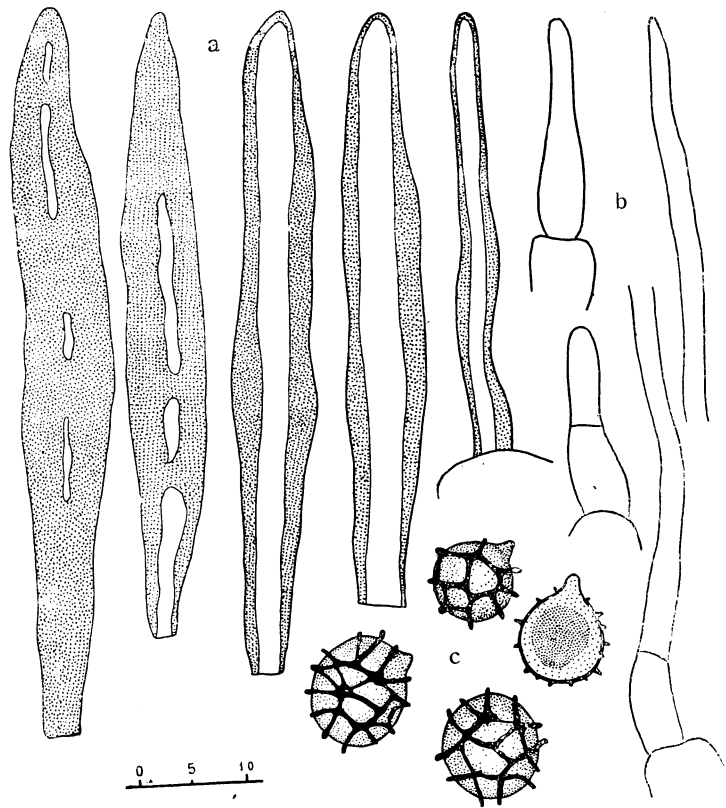


Fig. 12. *Lactarius corrugis* PK. Cystidia on the lamellae (a) and on the upper surface of the pileus (b), and spores (c).

チリメンチタケ cystidia, a) はヒダの面の cystidia, b) は傘の表面の cystidia, c) は孢子

しかしこれらの特長はかなり不安定のようなのである。1. 傘の表面がピロード状であることは、cystidia 状の細胞が表面に密生しているからであるが、肉眼的には一見滑らかとみられるチタケにも、同様の細胞が密生している。ただこれらが肉眼的に差を現わすのは、傘の表皮の地色に支配されるからで、色が濃い場合には毛が浮きたつて見え、淡い時には見逃されやすい。したがってピロード状の毛が有る無いの区別ではなく、地色が濃いか淡いかの区別にすぎないように考えられる。2. 傘の表面の皺はチリメンチタケでは極めて顕著である。しかしチタケといわれるべきものにも同様の皺がしばしばあらわれ、特に乾くと皺がしやすい。したがって皺の有る無しもまた変りやすい形質である。結局残るところは欄の色、特に若い茸の欄の色が両種の最大の区別点になる。しかしこの色にもかなりの変異性があるものようであるが、この点については今後の観察にまきたい。また以上の区別点も、一つづつをとりあげれば変異性があるために、種を区別する要素とは認めにくい、もしこれらの間に相関性が認められるならば、両種を区別することは必ずしも困難ではない。いずれも今後の研究課題として残される問題である。

なお、ビロードチタケ *L. luteolus* PK. も傘の表面がビロード状で本種に類似するが、胞子が小さいこと ($5\sim 5.5\times 5\sim 7.5\mu$) で区別される。

***L. deliciosus* (L.) FR. forma *laeticolorus* IMAI**

和名：アカモミタケ (食, N—T) 分布：日 (本—北)

資料：X—26, 1949, leg. TOKI (F. 1573)

***L. deliciosus* (L.) FR. forma *virescens* IMAI**

和名：アカハツ (食, T) 分布：欧, 北米, 亞：(トルコ), 日 (北—本)

資料：leg. IMAI (in Herb. Univ. HOKK.)

***L. flavidulus* IMAI**

和名：キハツダケ (食, N—T) 分布：日 (本—北)

資料：X—26, 1949, leg. TOKI (F. 1572)

***L. hygrophoroids* BERK. et CURT.**

和名：ヒロハチチタケ (食, T) 分布：北米, 欧, 亞：日 (本—北)

資料：K—13, 1949, leg. TOKI (F. 1351)

***L. piperatus* (SCOP.) FR.**

和名：ツチカムリ (食, T) 分布：欧, 北米, 濠, 亞：(支, 西), 日 (北—本)

資料：K—13, 1949, leg. TOKI (F. 1349)

***L. piperatus* (SCOP.) FR. forma *pergamenus* (SWARTZ ex FR.) IMAI**

和名：カワチチタケ (食, T) 分布：欧, 北米, 亞：(朝, 西), 日 (北—本)

資料：K—13, 1949, leg. TOKI (F. 1347)

***L. subdulcis* (PERS.) FR.**

和名：ヒメチチタケ (食, T) 分布：欧, 北米, 亞：(支, 西), 日 (北—本)

資料：X—26, 1949, leg. TOKI (F. 1579)

***L. subplinthogalus* COKER**

Journ. Elisch. Mitch. Soc., 34 : 50 (1918) [New to Japan]

肉眼的特徴：傘は 4~6 cm, 中央部が凹み, 縁ははじめ内がわに巻くが, 後開いて漏斗状となる, 表面はくすんだ狐色(Buff brown), 粉状で, 放射状の皺があり, かつ, 縁には扇面状のひだがある, 肉は割合に薄く, 白いが桃色に変る; 柄は直生, 非常に疎で, 巾広く, 分岐しない, 白茶けた狐色(Cinnamon buff)で傷つけば桃色にかわる; 茎は 3~5×0.5~1cm, 上下ほぼ同大, 傘の色より淡く, くすんだ黄金色, 表面は粉状, 小皺をおびる, 内部には疎な髄がある; 乳は, はじめ白く, 後に桃色にかわり, 味は辛い; 胞子紋は黄褐色。

顕微鏡的特徴：胞子は 8~10 μ (網目を除いて) 類球形, 表面筋状~網目状をなし, その高

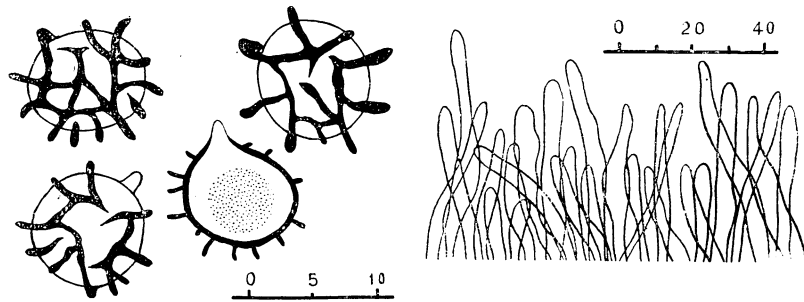


Fig. 13 *Lactarius subplinthogalus* COKER. Spores and hairs on the upper surface of the pileus.
ヒロハウスズミチチタケの胞子と傘の表面の毛

さは 2μ に及ぶ。傘面は $4\sim6\times20\sim40\mu$ の膜の薄い毛で被われる。

和名：ヒロハウスズミチチタケ (新称) (T) 分布：北米，亞：日本 (本)

資料：X—5, 1951, leg. TOKI (F. 2916); X, 1952, leg. IMAZEKI et TOKI

考察：本菌はウスズミチチタケ *L. fuliginosus*, ハイイロカラチチタケ *L. acris*, クロチチタケ *L. ligniotus* に似ているが、前の2種とは欄が著しく疎らで巾が広いことで異なり、クロチチタケとは傘の色が淡いばかりでなく、欄は一層まばらで、その色は狐色に近いこと、乳は変色性が強く、かつ、味が明らかに辛いことなどで容易に区別される。

This is new to the Japanese fungus flora. The present species is akin to *L. fuliginosus*, *L. acris*, and *L. ligniotus* but easily separable from the former two in having very broad and distant lamellae. From *L. ligniotus* which has broad distant lamellae, it differs by more broad and distant lamellae, which are cinnamon in color, lighter, cinnamon buff colored pileus, and the milk being very acrid and easily turning rosy in color.

Microscopical observations: Spores subglobose, $8\sim10\mu$ in diameter (except the reticulate ridges), costate or reticulate ridges 2μ high; the surface of the pileus is covered with thin walled hairs of $4\sim6\times20\sim40\mu$ large.

L. subvellereus PK.

Bull. Torr. Bot. Cl., 25 : 369 (1898)—COKER, l. c., 34 : 10 (1918)—BURLINGHAM, Mem. Torr. Bot. Club., 14 : 33 (1908) [New to Japan]

肉眼的特徴：傘は $4\sim7$ cm, はじめ半球形, 後中央部凹む, 縁は幼時強く内がわにまき後平たくひろく, 表面はビロード状の毛で覆われ, 白色或は褐色を帯びる, 肉は堅く, 帯褐白色で変色しない; 欄は白色ないし乳白色, 茎に直生, 巾狭く, 密生する; 茎は白色, 基部では褐色を帯び, 表面はビロード状を呈する, 上下同大または下が細く, $2\sim3\times0.8\sim1.5$ cm, 傘にくらべて短かい, 肉は白くて充実する; 乳は白色で非常に辛い。

顕微鏡的特徴：傘面の毛は径 $3.5\sim4.5\mu$, 細胞膜は厚く $1\sim1.5\mu$ で, $70\sim100\mu$ の長さに達し, 直立する; 傘の組織は最上層はもつれあつた密な菌糸層の表皮で覆われ, その下に球形細胞の層がある; cystidia は紡錘形でおおむね乳頭突起があり, 大きさは $6.5\sim10\times45\sim$

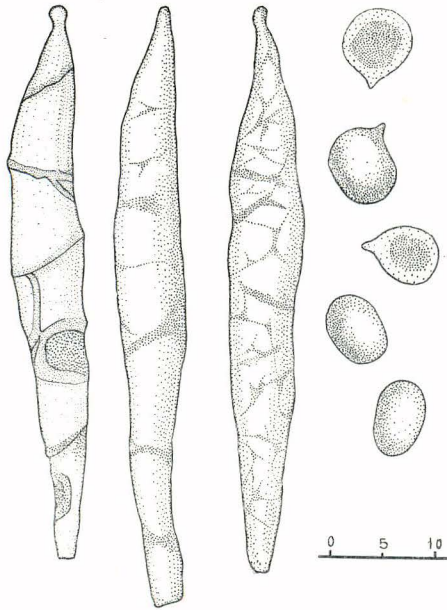


Fig. 14 *Lactarius subvellerus* PK.
Spores and cystidia.

ケシロハツモドキの胞子と cystidia
are broadly ellipsoid or subglobose, smooth, and $5\sim6.5\times6.5\sim7.5\mu$.

88μ ; 胞子は広楕円形～類球形, 平滑, $5.0\sim6.5\times6.5\sim7.5\mu$.

和名: ケシロハツモドキ (新称) (T)

分布: 北米, 亞: 日本 (本)

資料: X—17, 1947, leg. TOKI (F.93)

考察: ケシロハツ *L. vellerus* は表面の状態および形が本菌に非常に似てゐるが, 欄が疎であるから, 容易に本菌と区別がつく。

Microscopical observations: Hairs on the surface of the pileus are thick walled (wall $1\sim1.5\mu$ thick), erected, $3.5\sim4.5\mu$ thick, and $70\sim100\mu$ long. The outermost layer of the pileus consists of irregularly interwoven hyphae, under this lying a layer consisting of globose cells; cystidia are generally mucronate, fusoid, and $6.5\sim10\times45\sim88\mu$; spores

L. uvidus FR.

和名: トビチヤチタケ (T) 分布: 欧, 北米, 亞: 日本 (本—北)

資料: X—17, 1949, leg. TOKI (F. 1578)

L. vellerus FR.

和名: ケシロハツダケ (T) 分布: 欧, 北米, 亞: (トルコ), 日 (北—本)

資料: X—13, 1949, leg. TOKI.

L. volemus FR.

1. c., 344 (1838) —CKE., 1. c., 999 (1888) —REA, 1. c., 493 (1922) —BRES., 1. c., 8; 390 (1928) —KAWAMURA, Jap. Fung. 174 (1929) —IMAI, 1. c., 327 (1938) —Y. KOBAYASHI, Nipp. Inkasyok. Duk., 511 (1939)

肉眼的特徴: 傘は径 $3.5\sim10$ cm, はじめまんじゅ笠で中心やや凹み, 後平ら或はや漏斗状になる, 黄橙色ないし淡黄橙色を呈し, 滑らかまたは粉状 (乾燥時は明瞭に粉状ないし細かいビロード状になる), しばしば皺がよつてゐる; 欄は淡橙黄色で, 傷つけば褐色に変る; 茎は $4\sim10\times0.7\sim2$ cm, 傘の面と同色, または淡く, 粉状を呈し, 内部はフェルト状の肉が粗く填まつてゐる; 乳は白色乳状, 多量でやや渋味を有し, 次第に褐変する; 胞子紋は白色。

顕微鏡の特徴: 胞子は $8\sim11\times10\sim11\mu$, 類球形, 網目状の隆起をおびる; cystidia は $6\sim8\times50\sim70\mu$, 紡錘形, 表面に凹凸があり, 次第に細胞膜が内側に厚くなり, それに伴い無色か

ら淡褐色に変る、また傘面にも *cystidia* 状の細胞が密生し、 $3\sim6\times20\sim60\mu$ で、棒状を呈し、次第に膜が厚くなり、表皮の球形細胞から直接に生える。

和名：チチタケ (食, T) 分布：北米, 欧, 亞：(支那, トルコ), 日本 (全土)

資料：Ⅸ—13, 1949, leg. TOKI (F. 1348), Ⅶ—28, 1950, leg. TOKI (F. 2088)

考察：シワチチタケ *L. corrugis* のところで述べたように従来 *L. volemus* の傘は平滑 (smooth) であるといわれてきたが、筆者等が今まで多くの個体を採集し、観察したところでは、生時必ずしも平滑であるとはいい難く、粉状ないし細かいビロード状を呈するものも少なからず見受けられる。この点は乾燥時にはさらに顕著になり、生時無毛状を呈するものでも乾くと粉状を呈するようになる。これは傘の表面に存在する *cystidia* 状の細胞が、傘の地色が濃い場合、また乾燥して地色が濃くなつた時、或いはその細胞が¹⁵⁾に密生する場合に際立つてくるもののようである。

Microscopical observations: Spores are subglobose, reticulate, and $8\sim11\times10\sim11$; *cystidia* are fusoid, irregularly verrucose on the surface, $6\sim8\times50\sim70$; the cell walls gradually thickening inward, and then becoming light brownish in color; *cyatidia* like hairs are present on the surface of the pileus which are $3\sim6\times20\sim60$ large, clavate and grow directly from the globose cells.

Russula alutacea PERS. ex FR.¹⁵⁾

和名：アカネタケ (食, T) 分布：欧, 北米, 濠, 亞：(トルコ), 日 (北一本)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI (F. 3140)

Russula alutacea FR. var. **olivacea** (FR.) LANGE

Agar. Denm., 6: 44 (1926) —KONR. & MAUBL., 1. c., 4: 356 (1928)

15) ベニタケ属の種の検索

胞子紋は白色	1
胞子紋は白橙色	4
胞子紋は黄褐色	7
1 味は辛い	2
1 味はない	3
2 傘は赤色、褶はやや疎、離生に近い、傘の縁は溝状	ドクベニタケ
2 傘は赤色、褶は密、上生*, 傘の縁は筋の間に夥粒がある	コベニタケ
3 傘は白色、褶は青色を帯ぶ	アイバシロハツ
3 傘は黒鼠色、肉は空気にふれると赤色になり、ついに黒変する。褶は厚く、疎	クロハツ
4 味は辛い	5
4 味はない	6
5 傘は黄褐色、臭はくさい	クサハツ
5 傘は黄褐色、臭はややくさい、辛さは少ない	コクサハツ
6 傘は主に紫色であるが、赤、緑の雑色、平滑	カワリタケ
6 傘は緑青色、亀甲状に割れる	アイタケ
7 味ははなはだ辛い、傘はばら色	ウスクレナイタケ
7 味はない	8
8 傘は赤血色、肉は変色しない	アカネタケ
8 傘は緑色、肉は変色しない	クサイロアカネタケ
8 傘は緑色、肉は褐変する	コケイロタケ

* 上生: (adnexed) 褶の縁が切れあがり、褶の巾よりは狭く茎に附着している状態

R. olivacea Fr., Epicr., 356 (1838) —GILL., l. c. 236 (1878) —COOK, 7: 1001 (1888) —REA, l. c., 461 (1922) [New to Japan]

肉眼的特徴：傘は径 9.5 cm, まんじゆ笠状で, 中央部凹み, オリーブ色を呈するが部分的に濃淡を有し, 或いは赤味を帯び, やや粉状, 肉は白色で変色せず, 厚く, 味はない; 棚は直生, 巾広く, やや疎で, 橙黄色を呈する; 茎は 1.7×7 cm, 太く頑丈で, 白色の地に桃色を散らす; 胞子紋は橙黄色を呈する。

顕微鏡的特徴：表皮はゲラチン層の中に, 縦にもつれあつた, 短い菌糸状の毛からなる; 胞

子は 10~12×8~10 μ , 高低混合した細疣状を呈し, 広楕円形で, 黄褐色を呈する; cystidia は太さ 9~18 μ , 紡錘形。

和名：クサイロアカネタケ (新称) (T)

分布：欧, 亞：日本 (本)

資料：X—4, 1951, leg. TOKI (F. 2925)

考察：本菌は *R. olivascens* Fr. と非常に似たものであるが, KONRAD, MAUBLANC 両氏によれば本種は *R. alutacea* のオリーブ色型で, 一方 *R. olivascens* は *R. xerampelina* のオリーブ色型であり, *xerampelina* のグループは肉の割れ目が褐変し, またザリガニ様の特殊な臭があり, 硫酸鉄でオリーブグリーンに変るが,

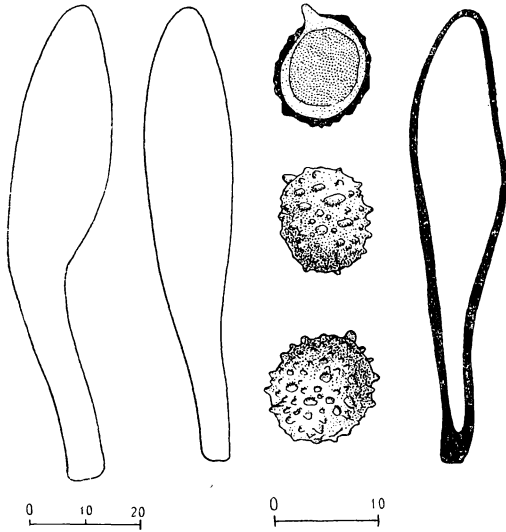


Fig. 15 *Russula alutacea* var. *olivacea* (Fr.)
LANGE. Spores and cystidia
クサイロアカネタケの胞子と cystidia

alutacea グループの肉は変色しないという。

Microscopical observations: Pellicle consists of irregularly interwoven short hyphal hairs which are imbedded in the gelatinous matrix; spores broadly ellipsoid, 10~12×8~10 μ , finely verrucose, yellowish brown; cystidia 9~18 thick, fusoid.

R. cyanoxantha (SCHAEFF.) Fr.

和名：カワリハツ (食, T) 分布：欧, 北米, アフリカ, 亞：日 (北一本)

資料：X—19, 1952, leg. TOKI (F. 3142)

R. delica Fr. forma *chloroides* (KROMBH.) IMAI

和名：アイバシロハツ (食, T) 分布：欧, 北米, 亞：日 (本—北)

資料：X—13, 1949, leg. TOKI (F. 1358)

R. emetica (SCHAEFF.) Fr.

和名：ドクペニタケ (毒と称せられる, T) 分布：欧, アフリカ, 濠, 亞：日 (本—北)

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI

R. foetens (PERS.) FR.

和名：ヘクソハツ (T) 分布：欧, 北米, 亞：(支, トルコ), 日 (本—北)

資料：Ⅹ—26, 1949, leg. TOKI (F. 1588)

R. fragilis (PERS.) FR.,

和名：コベニタケ (T) 分布：欧, 北米, 亞：日 (本)

資料：Ⅱ—4, 1950, leg. IMAZEKI (F. 2133)

R. nigricans (BULL.) FR.

和名：クロハツ (食, T) 分布：欧, 北米, 亞：(トルコ), 日 (本—北)

資料：Ⅸ—13, 1949, leg. TOKI (F. 1356)

R. olivascens PERS. ex FR.

和名：コケイロタケ (T) 分布：欧, 北米, 亞：(トルコ), 日 (本—北)

資料：Ⅹ—6, 1950, leg. TOKI (F. 2294)

R. rubra (KROMBII.) BRES.

和名：ウスクレナイタケ (食, T) 分布：欧, 北米, 亞：日 (本—北)

資料：leg. IMAI. (in Herb. Hokk. Univ.),

R. subfoetens W. G. SM.

和名：コクサハツ (T) 分布：欧, 亞：(トルコ), 日 (本—北)

資料：Ⅹ—17, 1947, leg. TOKI (F. 97)

R. virescens (SCHAEFF.) FR.

和名：アイタケ (食, T) 分布：欧, 北米, 亞：日 (本—北)

資料：Ⅸ—13, 1949, leg. TOKI

GASTEROMYCETES

Octaviania columellifera Y. KOBAYASHI, (Hysterangiaceae)

和名：ジャガイモタケ (T) 分布：日本特産

資料：Ⅹ—4, 1951, leg. IMAZEKI (F. 2943)

Astraeus hygrometricus (PERS.) MORG. (Astraeaceae ツチグリ科)

和名：ツチグリ (T) 分布：汎世界的

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI

Calvatia craniiformis (SCHWEIN.) FR. (Lycoperdaceae ホコリタケ科)

和名：ノウタケ (食, T) 分布：欧, 北米, 亞：(支), 日 (本—北)

Lycoperdon perlatum PERS. (ホコリタケ科)

和名：ホコリタケ（キツネノチャブクロ）（食，T） 分布：汎世界的

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI

L. umbrinum PERS.

和名：ツブホコリタケ 分布：欧，北米，亞：日 資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI

Phallus impudicus L. ex PERS. (スツボンタケ科)

和名：スツボンタケ (T) 分布：汎分布，全日本

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. TOKI

Lindera bicolumnata (LOYD) CUNNINGHAM (アカカゴタケ科)

和名：カニノツメ (T) 分布：日本特産

資料：Ⅺ—24, 1950, leg. TOKI (F. 2348)

Pseudocolus Schellenbergiae (SUMST.) JOHNSON (〃 科)

和名：サンコタケ (T) 分布：北米，亞：(西印)，日

資料：Ⅹ—26, 1949, leg. TOKI (F. 1585)

Geastrum triplex (ヒメツチグリ科)

和名：エリマキツチグリ (T) 分布：欧，米，亞：日

資料：Ⅹ—19, 1952, leg. IMAZEKI

Rhizopogon rubescens TUL. (シヨウロ科)

和名：シヨウロ (食，T) 分布：汎世界的

資料：Ⅴ—19, 1949, leg. TOKI (F. 1153)

Ⅲ 浅川実験林を Type locality (原標本の採集地) とするもの5種

(Species which were originally collected from this forest.)

Hygrophorus obruenseus FR. f. *pusillus* IMAI, in Bot. Mag., 55: 446, 1941.

Typus, leg. IMAI, Oct. 12, 1940. ヒメキヤマタケ

Hygrophorus purpureobadius IMAI, Bot. Mag., 55: 447, 1941. Typus, leg.

Imai, Oct. 12, 1940. ヒメサクラシメジ

Entoloma crassipes IMAZEKI et TOKI, n. sp. ウラベニホテイシメジ

Boletellus floriformis IMAZEKI, Nagaoa, 2: 42, 1952. Typus, leg. TOKI, Sept.

13, 1949. キクバナイグチ

Xerocomus astreicola IMAZEKI, Nagaoa, 2: 35, 1952. Typus, leg. IMAZEKI,

July 31, 1951. タマノリイグチ

Ⅳ 本報告によつてはじめて日本に記録されるものおよび新種
(Species new to Japan and new species written in this paper.)

Cortinarius triumphans FR. チャオビフウセンタケ

Crepidotus sulphurinus IMAZEKI et TOKI. ザラミノチャヒラ

本種ははじめ浅川で発見し、新種として上記の新学名を用意したが、その後、群馬県下で、より良い標本を得たので、タイプを後者に指定した。

Entoloma crassipes IMAZEKI et TOKI ウラベニホテイシメジ 浅川をタイプロカリティーとするが、青森、栃木、長野などにも産する。

Tricholoma orirubens QUÉLET ケショウシメジ

Tricholoma saponaceum (FR.) QUÉL. var. *squamosum* (CKE.) REA. ミネシメジ

Tricholoma semitale (FR.) RICKEN スミゾメシメジ

Lactarius acris BOLT. ex FR. ハイイロカラチチタケ

Lactarius corrugis PECK チリメンチチタケ

Lactarius subplinthogalus COKER ヒロハウスズミチチタケ

Lactarius subvellereus PECK ケンロハツモドキ

Russula alutacea FR. var. *olivacea* (FR.) LANGE クサイロアカネタケ

Tyromyces incarnatus IMAZEKI アケボノオシロイタケ

Ⅴ *Aphyllorphales* (サルノコシカケ目) の分類と科の検索
(Classification of *Aphyllorphales*, and key to the families)

FRIES—ENGLER の分類体系による従来の *Thelephoraceae*, *Clavariaceae*, *Hydnaceae*, *Polyporaceae* を総括する 1 群が *Aphyllorphales* である。特殊な菌を除いて傘の下面には網をつくらない茸のグループであり、網を形成する *Agaricales* に対立する。

上記のようにこの群は FRIES 式分類の *Thelephoraceae* 以下の 4 科からなるが、近代分類学はこれらの 4 科に属する菌を縦横に再分割、統合し、自然の類縁に基いて科の分け方を一変するに至つた。現在までにはまだ全体的に頼りになるような分類体系はできていないが、筆者らは一応次のような科に分けて、各菌を配置した。すなわち

1. *Corticaceae* ウロコタケ科 2. *Clavariaceae* ホウキタケ科
3. *Cantharellaceae* アンズタケ科 4. *Phylacteriaceae* イボタケ科
5. *Coniophoraceae* イドタケ科 6. *Hymenochaetaceae* タバコウロコタケ科
7. *Mucronoporaceae* キコブタケ科 8. *Hydnaceae* ハリタケ科
9. *Meruliaceae* シワタケ科 10. *Polyporaceae* サルノコシカケ科

以上のうち *Hymenochaetaceae* と *Mucronoporaceae* とは新しい科として提案したものである。これらの科と旧来の科との関係は極めて複雑で、一言では説明し難い。従来の分類式では、与えられた菌の属すべき科を決定するには、傘の下面の子実層托の形、すなわち平面的、針状、孔状、網状などの特長で簡単に定めたが、新しい分類ではそのように単純ではない。そこで与えられた菌の所属する科を求めるための参考として次のような検索表をつくつた。この検索はもちろん不完全なものである。また各科の特長を一覧的には示してはいない。筆者らは与えられた機会を利用して、旧式分類から革新分類への切りかえを促したいと考え、その一歩としてこの検索表を試みに提出したものである。

検 索 表

I. きのは一般に樹の上に生えるが、稀に地上にはえる；よく発達した茎をそなえるものもあるが、一般に樹に生えるものは背着生で傘をつくらないか、或いは薄い傘を棚形に張りだす；多くは革質で強靱；傘の下面すなわち子実層ができる面は平坦で、特別な突起（針又は疣）、皺、孔、網などがない。

1. 稀に地上生で茎をもつものがある；肉は丈夫な革質、肉の色は褐色をおびない；子実層には褐色の剛毛体はない；胞子は無色、平滑……………ウロコタケ科 *Corticaceae*

2. 樹の上にはえ、常に背着生、肉は弛やかに結合した菌糸からなり、色は淡褐色、剛毛体を欠く；胞子は黄褐色、広楕円形……………

イドタケ科 *Coniophoraceae* (*Coniophoroideae-Coniophora*)

3. 樹上生、背着生または棚状の傘をつくる；肉は革質、明らかに黄褐色または茶褐色；子実層には常に剛毛体がある；胞子は無色、長楕円形……………

タバコウロコタケ科 *Hymenochaetaceae*

II. きのは一般に地上にはえ、棒形、そうめん形、樹枝状など；子実層はきのはの表面に発達し、向地性を示さない；肉は肉質または革質。

1. 肉質で種々な鮮かな色をあらわす；胞子は平滑または細かい疣をおびる……………

ホウキタケ科 *Clavariaceae*

2. 革質で濃い暗褐色；胞子はほぼ球形、顕著な疣をおびる……………

イボタケ科 *Phylacteriaceae* (イボタケ簇 *Thelephoreae-Thelephora*)

III. きのは地上生、傘と茎との分化は明瞭、肉質、傘の下面には放射状の皺（極めて不完全な網）をおび、その表面に子実層が発達する。

1. 胞子は平滑……………アンズタケ科 *Cantharellaceae*

2. 胞子は疣をおびる；きのはほとんど黒色……………

イボタケ科 *Phylacteriaceae* (カラストケ簇 *Polyozelleae-Polyozellus*)

IV. きのは肉質または革質、地上生または樹に生える；傘の下面には無数の乳首状の疣、

または針を生じ、その表面に子実層が発達する。

1. 胞子は無色、平滑、一般に長楕円形
 - a. 針は針状.....ハリタケ科 *Hydnaceae*
 - b. 針は扁たい薄菌形サルノコシカケ科 *Polyporaceae* (ウスバタケ属 *Irpex*)
2. 胞子は類球形、表面に顕著な疣をおびる.....

イボタケ科 *Phylacteriaceae* (イボタケ属 *Phylactereae*, コウタケ属 *Hydnelleae*)

V. 傘の下面には無数の孔があり、その内面には子実層が発達する。

1. きのこは樹上に生じ、ほとんど背着生；菌糸は着色（黄褐色）；孔は不完全で、不規則な網目状の低い隆起で囲まれた浅いくぼみ状を呈する。

- a. 胞子は広楕円形で淡褐色.....

イドタケ科 *Coniophoraceae* (ナミダタケ亞科 *Gyrophanoideae*)
- b. 胞子は長楕円形で無色.....*Meruliaceae*

2. きのこは一般に樹に生える；茎は明らかに分化することもあるが、一般はこれを欠く；茎がないものでは傘は半円形、棚形、または馬蹄形；肉は肉質、革質、コルク質、木質など；管孔は規則的で一般に小さくかつ深い。

- a. 傘の肉は黄褐色または茶褐色；子実層には一般に顕著な剛毛体を有する.....

キコブタケ科 *Mucronoporaceae*
- b. 傘の肉は種々な色をおびるが茶褐色のものは稀である；剛毛体化する菌糸を欠く；子実層には剛毛体を欠く。

- a. 胞子はほぼ球形で疣をおびる；地上生.....

イボタケ科 *Phylacteriaceae* (クロカワ属 *Boletopseae*)
- β. 胞子は無色、表面は滑らかである；子実体は裸実性サルノコシカケ科

VI. 傘の下面には網があり、その表面に子実層が発達する。

1. きのこは樹に生え；傘は半円形で丈夫な革質.....サルノコシカケ科

Polyporaceae (カイガラタケ属 *Lenzites*, キカイガラタケ属 *Gloeophyllum* など)
2. きのこは前者に似て革質；肉は褐色；網は同心輪型にならぶ.....

キコブタケ科 *Mucronoporaceae* (*Coltricia* の一部およびワヒダタケ属 *Cyclorhizyces*)

II. Agaricalesマツタケ目 の分類

Boletaceae (イグチ科) の属の分け方 (Classification of Boletaceae)

イグチの類、すなわち *Boletus* の仲間は子実層托が管孔状であるという、外面的な相似性によつて、従来の古い分類ではサルノコシカケ科におかれていたが、新しい分類学ではマツタケ科と肩をならべて *Agaricales* マツタケ目に籍をうつした。属の分け方も従来は *Boletus* と

いう膨大な属と *Strobilomyces* という特殊な属の 2 属によつて代表するといつた極めて大まかなものであつたが、近代学派は自然の類縁に基いて分類をなおし、20 に近い自然的な属に類別している。筆者今関は最近“日本産イグチ科”(Nagao, No. 2: 30~46, 1952)と題する論文で、*Boletaceae* に関する近代の分類学説を紹介し、これらを綜合して筆者の分類式を示し、さらに日本に既に知られた種をそのシステムによつて配列した。筆者が報告したものは 1 科 3 亜科 13 属 28 種である。属の配列は次の通りである。

Order Agaricales マツタケ目

Subord. Boletineae イグチ亜目

Family Boletaceae イグチ科

Subfam. 1. Boleteae イグチ亜科

Boletinus KALCHER. アミハナイグチ属

Suillus S. F. GRAY スメリイグチ属

Phylloporus QUÉLET キヒダタケ属

Pulveroboletus MURR. キイロイグチ属

Xerocomus QUÉLET アワタケ属

Boletus FR. ヤマドリタケ属

Leccinum S. F. GRAY ヤマイグチ属

Tylopilus KARST. ニガイグチ属

Subfam. 2. Gyrodontae QUÉL. シワイグチ亜科

Gyroporus QUÉLET クリイロイグチ属

Gyrodon OPAT. シワイグチ属

Subfam. 3. Strobilomyceteae オニイグチ亜科

Strobilomyces BERK. オニイグチ属

Porphyrellus GILB. クロイグチ属

Boletellus MURR. キクバナイグチ属

Subord. Agaricineae マツタケ亜目

従来日本で用いられていた属はいうまでもなく FRIES 式の旧体系であるから、大部分の種は *Boletus* 属の中に収められ、その他の属では *Boletinus* と *Strobilomyces* の 2 属が認められていただけであつた。したがつて本文において採用した新しい分類様式は、わが国では一般に耳なれないものであり、属の分け方などについてもこれまでに記したものがないので、以下 *Boletaceae* の属の検索表を記して参考に供したい。

イグチ科の属の検索表

1. 傘の下面の子実層托はヒダ状 *Phylloporus*

1. 傘の下面の子実層托は孔状..... 2
2. 孔は浅く、放射状に長い網目状(ヒダと孔との中間形)または皺孔状..... 3
2. 孔は規則正しい長い管孔状..... 4
3. 胞子は小形、楕円形、黄褐色..... *Gyrodon*
3. 胞子は大形、長い紡錘形、黄泥色..... *Boletinus*
4. 孔(子実層托)は帯緑黄褐色〜黄褐色..... 5
4. 孔は白、汚白色、淡紅色、暗紫褐色など..... 9
5. 傘は著しく粘質をおびる..... *Suillus*
5. 傘は粘質をおびない..... 6
6. 傘と茎の表面は粉でつつまれる..... *Pulveroboletus*
6. 粉をかぶらない..... 7
7. 傘の表面は滑らか、または粉毛をおびるが、鱗片をおびない。胞子は滑らかで長い紡錘形..... 8
7. 傘の表面は著しい鱗片をこうむる; 胞子は楕円形、表面に彫刻模様がある .. *Boletellus*
8. 傘はやや粘質、一般に厚く大きく; 茎は太く、しばしば表面に網目模様がある; 孔は互に離れやすい..... *Boletus*
8. 傘の表面はなめし革状で乾燥性、一般に小形; 孔は互に離れがたい..... *Xerocomus*
9. 孔ははじめ白、後に黄色; 胞子紋は黄色; 胞子は楕円形ないし卵形..... *Gyroporus*
9. 孔ははじめ白、胞子紋は黄褐色; 胞子は長い紡錘形; 茎の表面は著しく粗荒.....
..... *Leccinum*
9. 孔ははじめ白、後に淡い灰紅色、暗紫褐色ないし黒紫色..... 10
10. 傘の表面は滑らか; 胞子は滑らか..... 11
10. 傘の表面は著しい綿質の鱗被をおびる; 胞子は、黒紫色、広楕円形、表面に彫刻模様をおびる..... *Strobilomyces*
11. 胞子は細長い紡錘形; 胞子紋は淡紅色..... *Tylopilus*
11. 胞子は紡錘形〜細長い卵形; 胞子紋は褐紫色..... *Porphyrellum*

2. Agaricaceae マツタケ科の分類 (Classification of Agaricaceae)

マツタケ目の大部分をしめるマツタケ以下のいわゆる棚菌は R. MATRE, KUHNER, SINGER 等によつて新しい分類体系がたてられつつある。これらによると数科、100 余属に分類され、従来わが国で一般に行われているものとは面目を一変している。これらについては筆者らの見解も定まらず、あまりにも複雑であるので今回は多少の新味を加えるにとどめ、旧式分類体系に従つた。属の検索は第1表の通りである。

Agaricaceae の属の検索表 (Russulaceae をふくむ)

第 1 表

	胞 子 紋 の 色				
	白	紅	褐	紫	黒
I 菌体は柔軟な肉質である					
A 茎には壺と鏝がある	Amanita				
B 茎には壺だけある	Amanitopsis	Volvaria	Acetabularia	Chitonina	
C 茎には鏝だけある					
1 褶は離生又は隔生	Lepiota	Annularia		Agaricus	Anellaria
2 褶は湾生又は垂生	Armillaria		Pholiota	Stropharia	
D 幼時ベールがある*					
1 ベールは茎に輪状に残る	Cortinellus		Cortinarius		
2 ベールは傘の表面に糸状に残る			Inocybe		
E 茎には附属物がない					
1 茎は軟骨質					
a 褶は茎に直生ないし湾生	Collybia	Leptonia	Naucoria	Psilocybe	Panaeolus
イ 幼時傘の縁は内巻する					
ロ 幼時傘の縁は真直ぐである	Mycena	Nolanea	Galera	Psathyra	Psathyrella
b 褶は茎に垂生	Omphalia	Eccilia	Tubaria		
2 茎は肉質で、傘の中央に着く					
a 褶は茎に離生	Hiatula	Pluteus	Pluteolus	Pilosace	
b 褶は茎に湾生	Tricholoma	Entoloma	Hebeloma	Hypoholoma	
c 褶は茎に直生して他の茸に寄生する	Nyctalis				
d 褶は茎に垂生乃至直垂生					
イ 褶は半透明状	Hygrophorus				
ロ 褶の表面は胞子で粉面状になる	Laccaria				
ハ 褶は傘の肉から離れやすい					
ニ 褶は上記のようでない	Clitocybe	Clitopilus	Paxillus		Gomphidius
3 茎は側生、偏生か或いはない	Pleurotus	Claudopus	Flammula		
			Crepidotus		
II 菌体は脆い肉質で、不規則に割れる (Russulaceae)					
A 乳液を出す	Lactarius				
B 乳液を出さない	Russula				
III 菌体は薄く、繊弱で、はなはだ寿命が短い					
A 傘は液化化する					
B 傘は萎凋腐敗しやすい			Bolbitius		Coprinus
IV 菌体は薄く、強靱な肉質又は軟かい革質で、乾燥しても湿気を得れば原形にもどる					
A 傘面は平滑	Marasmius				
B 傘面は長い毛でおおわれる	Crinipellis				
V 菌体は皮革質ではなはだ強靱					
A 褶は全辺	Panus				
B 褶は鋸歯状	Lentinus				
C 褶は叉状に分岐する	Xerotus				
D 褶は皺状で、鈍縁	Trogia				
E 褶は乾くと縁が縦に裂ける	Schizophyllum				

Ⅶ. 浅川実験林の食菌と毒茸 (Edible and poisonous fungi)

この目録にあげたキノコは少数の変種、品種を含めて214種類である。そのうちの約4分の1は硬質の木材腐朽菌で全く食用の対象にはならないが、他のものは、ともかくも軟かいキノコで、一応はその食・毒性が問題になるものである。以下、食・毒性が明らかになっているものをあげると

a) たべられるキノコ

子囊菌 (オオチヤワシタケ)

キクラゲ科 (キクラゲ, アラゲキクラゲ)

シロキクラゲ科 (ニカワハナビラタケ)

ホウキタケ科 (チヤホウキタケモドキ・ホウキタケ・キソウメンタケ・シロソウメンタケ)

アンズタケ科 (アンズタケ・ヒメアンズタケ・ウスタケ・クロウスタケ)

イボタケ科 (カラストケ)

ハリタケ科 (シロカノシタ)

サルノコシカケ科 (ザボンタケ, ニンギョウタケモドキ)

イグチ科 (アケボノアワタケ・キヒダタケ・アマタケ・ヌメリイグチ)

[以下マツタケ科]

Agaricus (オオハラタケ・ハラタケモドキ・シロモリノカサ・ニセモリノカサ)

Amanita (タマゴタケ・ガンタケ)

Armillaria (ナラタケ)

Clitocybe (ホテイシメジ・クロサカズキシメジ)

Collybia (エセオリミキ・ヒロヒダタケ・ツエタケ・エノキタケ)

Cortinarius (アサギフウセンタケ・マンジュガサ・チヤオビフウセンタケ)

Cortinellus (シイタケ)

Entoloma (ウラベニホテイシメジ・コニセイツボンシメジ)

Gomphidius (オウギタケ)

Hygrophorus (オオサクラシメジ・ベニヤマタケ・アカヤマタケ・アカスマベニタケ・オオヒメノカサ・ハダイロガサ・ヒメサクラシメジ・オトメノカサ)

Hypholoma (イタチタケ・クリタケ)

Laccaria (キツネタケ・ウラムラサキ)

Lepiota (オニタケ・カラカサタケ・ワタカラカサタケ)

Lentinus (マツオウジ)

Pholiota (ヌメリスギタケ・ツチナメコ・ヒメアジロカサ・センボンイチメガサ・シヨウ

ウンジ)

Pleurotus (ムキタケ)

Tricholoma (マツシメジ・シロシメジ・ムラサキシメジ・ケショウシメジ・サマツモド
キ・ミネシメジ・アイシメジ・スミゾメシメジ・クロゲシメジ・クマンシメジ)

〔以下ベニタケ科〕

Lactarius (チリメンチチタケ・アカモミタケ・アカハツ・キハツタケ・ヒロハチチタケ・
ヒメチチタケ・チチタケ)

Russula (アカネタケ・クサイロアカネタケ・カワリハツ・アイバシロハツ・クロハツ・オ
オベニタケ・アオハツ)

ホコリタケ科 (ホコリタケ・ツブホコリタケ・ノウタケ)

シヨウロ科 (シヨウロ)

b) 主な食用キノコ

浅川実験林には 90 余種の食用菌がある。このうち量的にも質的にもすぐれた食菌をえらぶと、アカモミタケ、キハツダケ、アイバシロハツ、ムラサキシメジ、オオサクラシメジ、ヒメサクラシメジ、ウラベニホテイシメジなどがあげられる。ウラベニホテイシメジを除いては、いずれもモミ林内の茸で、浅川実験林の代表的な茸である。これらの茸は毎秋たくさん発生するが、このほかに晩秋の茸としてクリタケ、エノキタケなどを見逃すことができない。またこの実験林に多いシメジ属、ナメコ属、フウセンタケ属の茸は、1つ1つの種ごとの発生数は多くないが、美味な食用菌が多く、シメジ属のミネシメジ、ムラサキシメジは晩秋のすぐれた茸であり、年によつては相当大量に採集できる。

c) 毒キノコ

Amanita (タマゴテングタケ・コタマゴテングタケ・シロタマゴテングタケ・ドクツルタケ・ベニテングタケ)

Entoloma (クサウラベニタケ)

Hypholoma (ニガクリタケ)

Inocybe (アセタケ)

Stropharia (モエギタケ)

計 9種 (5属)

以上の表を総合してみると、a) 食用菌は目録にのせられたキノコの約3分の1強に上るが、毒茸は約20分の1である。b) 食用菌は各属にまたがつているが、毒茸は数個の属に限られていることが判る。そして個々の毒茸を知ることは勿論必要であるが、毒茸が所属する数個の属についての知識があれば、野生茸の食用価値を高めることができるということを教えるものである。

d) 重要な毒茸をふくむ属について

Amanita テングタケ属

タマゴテングタケ・シロタマゴテングタケなどの猛毒性のものをはじめ多数の毒茸はこの属に集まっている。この属の若い茸は外被膜という袋によつて茸全体が包まれており、卵のような形をしている。茸が生長すると袋を破つて傘と茎とがのびてくる。したがつて袋は上の端で裂けて茎の根元に残る。この下に残つた外被膜を壺(ツボ)という。ただし *Amanita* の中にも変形がある。もしこの外被膜が丈夫な性質であるならば、袋状の壺は明らかに茎の根元に残るが、質が脆いと傘が外被膜の中からのび出す時に、細かくちぎれてしまうので、袋状の壺にはならない。この場合には、ちぎれた外被膜は角張つた疣状の小片となつて、傘の表面と茎の根元に名残を残すのである。外被膜は一般に白いから、傘の表面に白い疣々を散在する茸は壺がある *Amanita* と同じ属のものであると判断して差支えない。

このような外被膜(壺)を持つ属は *Amanita* の他に *Amanitopsis* (ツルタケ属), *Volvaria* (フクロタケ属) があるが、*Amanita* の特長は図に示されるように、外被膜のほかに、内被膜(鏝ツバ)があることである。いかえれば *Amanita* 属のキノコは傘・鏝・茎・鏝・壺の5部分からなりたつていて、マツタケ科の茸では一番複雑な形態を与えている。なお *Amanita* と *Amanitopsis* とは胞子が白いが *Volvaria* の胞子は淡い紅色であり、胞子紋をとつても鏝の色をみても明らかに区別がつけられる。

Amanita 属には毒茸が多いばかりでなく、毒性もまた極めて猛烈なものが多い。色は必ずしもあざやかでない。いわば地味な色のタマゴテングタケ、シロタマゴテングタケなどに強烈な毒性があるため、誤まつて中毒する人が後を絶たない。*Amanita* 属の特長を知ることが茸中毒の50%を防ぐことになる。

Entoloma イツボンシメジ属

本属の茸は一般にシメジに似た鼠色の地味な傘を持ち、全く毒々しさが無い。しかも食用菌と毒茸が共にあつて誤食、中毒の例が毎秋少なからずある。図のように鏝も壺もないシメジ型のキノコであるが、シメジと異なる点は胞子が淡紅色をおび、したがつて鏝が淡い肉色またはバラ色を呈することで区別できる。鏝の色を観察することが必要である。浅川実驗林ではウラベニホテイシメジが本属に所属する優れた食用菌であり、土地の人も大いに利用しているが、同じ時期に同じ山に多量に生えるクサウラベニタケという一見類似の毒茸がある。なれた採集家はその区別に困難を感じないが、本属の茸は一応警戒を要するものである。

Hypholoma イタチタケ属

この属のものは朽木、切株などに群生する。クリタケのようなすぐれた食菌もあるが、類似のニガクリタケは毒性があるといわれる。中毒の劇しさは不明であるが、警戒の必要がある。ニガクリタケは普通針葉樹の切株に群生し、全体に硫黄色をおびたやや小型の茸である。その

名のように味が苦いことも特長である。これに対してクリタケは潤葉樹の切株に群生し、傘は茶色またはレンガ色で、黄色味はかすかである。

Inocybe アセタケ属

この属の茸には *Amanita muscaria* ベニテングタケと同じく、毒成分 *muscarin* をふくむ種類が多い。したがってアセタケをはじめ毒茸が多い筈であるが、中毒例が少ないのは茸自体が茸狩りの対象になりにくいからであろう。

この属の肉眼的な特長は“傘は概して 3~5 cm 前後、特に大形なものはない。形は一般にはじめ円錐形、次第に開くが中央部は終りまで凸出しているものが多い。表面は黄褐色のくすんだ色が多く、また表皮が放射状に裂けて繊維状のすちが目立つ性質がある。欄は黄褐色（孢子紋黄褐色）。茎は細長く縦にさける”。この属については最近小林義雄氏が“日本産アセタケ属について”（Nagaoa, No. 2: 76~115, 1952）という原色図入りのモノグラフを発表している。

Stropharia モエギタケ属

Agaricus ハラタケ属に類似して欄（孢子紋）は紫黒色、茎には鰐があるが、欄が茎に着生または鱗生することがハラタケ属（*Agaricus*、欄は離生または隔生）とちがう。毒茸といわれるモエギタケは針葉樹林内の地上に生え、傘は青緑色をおびる。

以上が毒茸がある代表的な属であるが、その他に疑問種としてシロヒメカヤタケ *Clitocybe candicans* がある。全体白色の小形の茸である。外国の文献によるとこのたぐいのものに毒茸があるとされており、本菌についても食毒いずれともはつきりした記録がないから注意が必要である。

マツタケ科以外の茸には毒茸は少ない。ことにイグチの類は他の群と区別しやすく、しかも毒茸が少ないので比較的安全な仲間として推賞されている。ただし傘の下面、すなわち管孔の表面が紅~赤色の種類は毒だといわれているから、この派手な毒々しい種類、たとえばウラベニイグチ、ウラベニイログワリなどに注意すればよい。またホコリタケの類はいずれも無毒で、若い時代、すなわち茸の内部に孢子ができる前は食用として賞味される。

EXPLANATION OF PLATES

Plate 1.

- A) *Entoloma crassipes* IMAZ. et TOKI, sp. nov. (Edible, 食)
- B) *Entoloma rhodopolium* (FR.) QUÉL. (Poisonous, 毒)

Plate 2.

1. 2. *Polyozellus multiplex* (UNDERW.) MURR., カラストケ
3. *Lepiota procera* (FR.) QUÉL., カラカサタケ
4. *Hygrophorus purpureobadius* IMAI, ヒメサクラシメジ

Plate 3.

1. *Amanita phalloides* (FR.) QUÉL., タマゴテンゲタケ
2. *Amanita virosa* (FR.) QUÉL., ドクツルタケ

Plate 4.

1. 2. *Entoloma crassipes* IMAZ. et TOKI, ウラベニホテイシメジ
3. *Entoloma rhodopolium* (FR.) QUÉL., クサウラベニタケ
4. *Hygrophorus ovinus* (BULL.) FR., オオヒメノカサ

Plate 5.

1. *Lactarius vellereus* FR., ケシコハツ
- 2, 3. *Lactarius piperatus* FR., ツチカブリ
4. *Hydnellum zonatum* (BATFCH ex FR.) KARST., チヤハリタケ
5. *Crepidotus sulphurinus* IMAZ. et TOKI, ザラミノチヤヒラ (Typus)
6. *Clitocybe candicans* (PERS. ex FR.) QUÉL., シロヒメカヤタケ

Plate 6.

1. *Lactarius deliciosus* L. ex FR., f. *laeticolorus* IMAI, アカモミタケ
2. *Lactarius uvidus* FR., トビチヤチタケ
3. *Lactarius subdulcis* PERS. ex FR., ヒメチタケ
4. *Tricholoma saponaceum* (FR.) QUÉL. var. *squamosum* (COOK) REA, ミネシメジ
5. *Lactarius corrugis* PERS., チリメンチタケ
6. *Sarcodon scabrosus* (FR.) QUÉL., ケロウヂ

Plate 7.

1. *Lactarius flavidulus* IMAI, キハツダケ
2. *Lactarius volemus* FR., チチタケ

